



定禅寺通 再整備方針

「ひと中心の空間」への転換
多様なアクティビティが生まれる環境づくり



令和5年3月
仙台市

定禅寺通再整備方針

1.	はじめに	1
1.1.	背景	1
1.2.	定禅寺通エリアの特徴と活性化の方向性	3
1.3.	本方針の目的と位置づけ	6
2.	定禅寺通再整備方針	7
2.1.	定禅寺通再整備の方向性	7
2.2.	定禅寺通の再整備の考え方	12
2.3.	再整備計画図	34
2.4.	再整備のイメージ	38
2.5.	再整備のスケジュール	40
	参考資料	41
1.	定禅寺通エリア活性化の取り組みの経緯	41
2.	定禅寺通再整備方針策定に係る取り組み	50

1. はじめに

1.1. 背景

定禅寺通（本方針では、「市道定禅寺通線」をいう。）は、美しいケヤキ並木や主要な文化施設があり、また定禅寺ストリートジャズフェスティバルや SENDAI 光のページェントをはじめとする様々なイベントの舞台として、市民や多くの来訪者にも愛される本市のシンボルロードです。

定禅寺通エリアでは、これまでも文化を創造する魅力ある街づくりや、ケヤキ並木を活かした都市景観づくりが進められてきました。一方、本市の都心では、近年、仙台駅周辺へ人の流れと賑わいが集中する傾向が続いており、多様な魅力をもつ一番町や国分町などを含む定禅寺通エリアの活力低下が懸念される状況にあります。

そこで、本市では、都心の重要な拠点のひとつである定禅寺通エリアの魅力を高め、人の流れを引き寄せることにより、都心全体の回遊性向上と活性化を図るため、平成 29 年度より定禅寺通エリア活性化に向けた取り組みを開始しました。また、定禅寺通を含む「勾当台・定禅寺通エリア」において、計画が進む本庁舎建替えや勾当台公園の再整備等、エリアでの個々の取り組みが結び付いた一体的な「面」としての魅力向上を図るため、令和 3 年 5 月に「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」（以下、「エリアビジョン」という。）を策定しました。エリアビジョンでは、『“交流”と“ゆとり”を楽しむところ～みんなで育む“仙台の庭”～』をまちづくりの理念として掲げ、本市としての「施策や取り組みの方向性」をとりまとめています。

一方、地域においては、定禅寺通エリアに関係する町内会や沿道地権者等を中心とした「定禅寺通活性化検討会」（以下、「検討会」という。）が平成 30 年 10 月に設立され、定禅寺通エリアの将来像とその実現に向けた取り組みについて継続的に検討しながら、市民参加型シンポジウムや道路空間利活用の日常化等に向けた社会実験等が行われてきました。



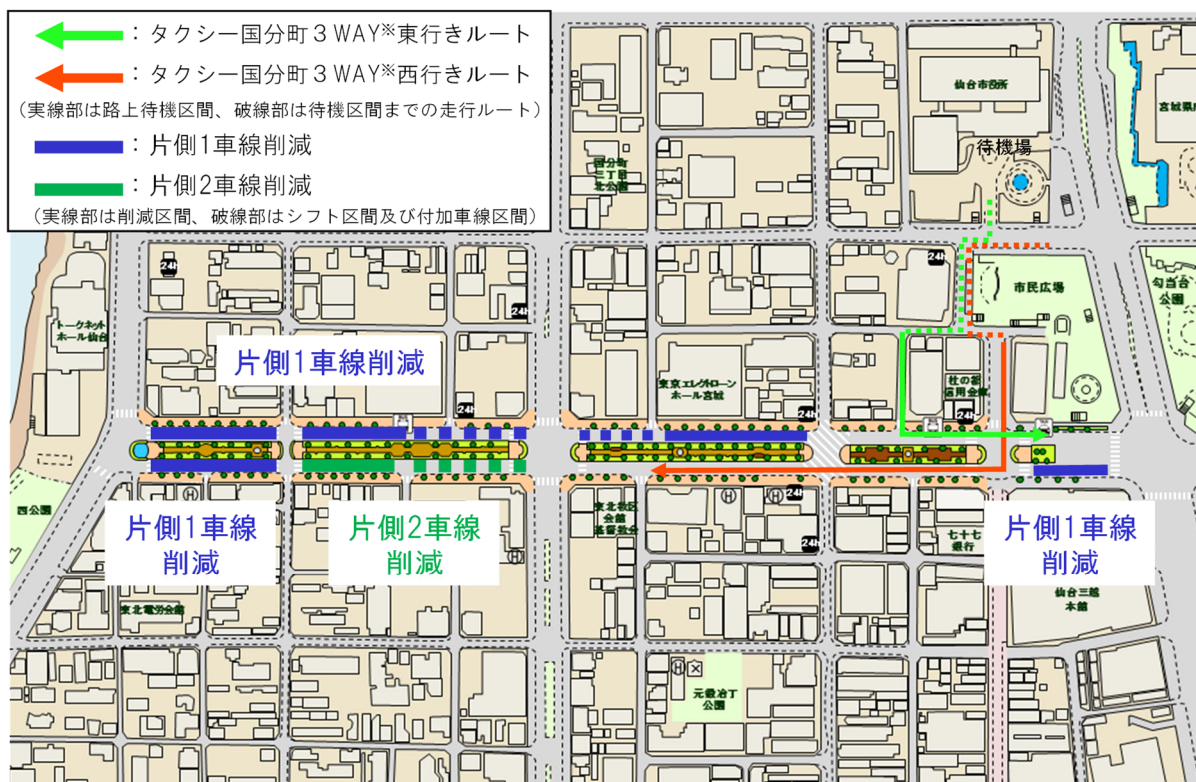
名称	市道定禅寺通線
延長	約 0.71km
幅員	46m

図 定禅寺通の位置と構造

令和3年8月20日から9月7日には、車線削減による交通への影響と、道路空間の活用
 の日常化に向けた効果や課題等を調査するため、定禅寺通の車線を一部削減し、拡張した歩
 行者空間を利活用する大規模な社会実験を、本市と検討会の共催で実施しました。片側1車線削
 減を基本とした車線規制を実施しましたが、交通量調査では、社会実験の規制による自動車交
 通への影響（混雑等）はほとんど生じなかったという結果が得られています。

令和4年3月には、検討会における検討の集大成として、定禅寺通エリアの関係者が将来の
 まちづくりの方向性を共有し、その実現を目指し取り組んでいくための指針として「定禅寺通エ
 リアまちづくりビジョン2030（まちづくり基本構想）」（以下、「基本構想」という。）が策定さ
 れました。基本構想の中では、『世界に誇るケヤキ並木と共に「ここにしかない」プライスレス
 な時間と体験を。』がまちづくりの理念として掲げられ、目指す街の姿やその実現に向けたプロ
 ジェクトメニュー等がとりまとめられています。

地域と本市がそれぞれ策定したこれらの2つのビジョンにおいては、「エリアの個性・強みを
 磨き、訪れたくなる魅力を高める」という取り組みの方向性が共通しています。



※タクシー「国分町3WAY」方式。午後10時半から翌午前3時まで、タクシー乗り場を定禅寺通（東進、西進）、広瀬通（東進）の3か所に集約し、それぞれの乗り場からタクシーが待機レーンに整然と順番に並ぶことで、国分町地区の違法客待ちタクシーによる深夜の交通混雑を解消するもの。

図 大規模社会実験車線規制図

1.2. 定禅寺通エリアの特徴と活性化の方向性

1.2.1. 定禅寺通エリアの特徴等

定禅寺通エリアには仙台を代表する豊かな公共空間が存在すること、市民協働によるまちづくりの歴史が継承されてきていること、様々な文化芸術の活動やイベントの舞台となってきたこと、エリア内やエリア周辺に多くの居住者や従業者が存在することといった個性・強みがあります。

【定禅寺通エリアの個性・強み】

- 仙台を代表する豊かな公共空間
 - 戦災復興事業で整備された広幅員の道路空間と美しいケヤキ並木
 - シンボルロード整備事業で整備された中央緑道
 - 勾当台公園や西公園などの大規模な都市公園が隣接
- 市民協働によるまちづくりの歴史と継承
 - 市民協働による空間利活用の歴史と実績
 - 次世代への継承が進むエリアマネジメント体制
- 文化芸術の活動やイベントの舞台
 - せんだいメディアテークをはじめとする文化芸術の活動拠点
 - 定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどの市民イベント
- エリア内やエリア周辺に多く居住者・従業者が存在
 - エリア周辺居住者は約 6 千人（20 年間で約 1.5 倍に増加）※¹
 - エリア周辺従業者は約 3 万人※²

一方、本エリアにおける課題は、日常的な賑わいの創出と都市機能の高質化です。上記の個性・強みを活用して磨きをかけることで、課題解決につながると考えます。

【定禅寺通エリアの課題】

- 日常的な賑わいの創出と都市機能の高質化
 - 消費や滞在を促す施設等が乏しく、日常的な賑わいが生まれにくい
 - 日常的な歩行者の通行量が仙台駅周辺と比べて少ない
 - 建築物が老朽化し、都市機能の更新・高質化が進んでいない
 - 青空駐車場が多く、低未利用な土地が多い

※ 1 一番町四丁目、春日町、国分町二丁目、国分町三丁目、立町の居住者数を国勢調査（2000 年～2020 年）から集計

※ 2 一番町四丁目、春日町、国分町二丁目、国分町三丁目、立町の従業者数を経済センサス（2014 年）から集計

1.2.2. 定禅寺通エリア活性化の方向性

定禅寺通エリアの活性化の推進に向けては、本エリアの「個性・強み」に磨きをかけ、次に示すようなエリア像の実現を目指し、訪れたい魅力を高めていくことが重要と考えます。

<目指すエリア像>

- 近隣の居住者や従業者の他、**多様な人々が日常的に訪れ、美しいケヤキ並木のある豊かな公共空間で時間を過ごし、楽しむことができるエリア**
- 市民協働や文化芸術の舞台として、多様な人々が様々な挑戦を行う場となり、**市民活動やクリエイティブな活動が日常的に展開されるエリア**

このようなエリア像を実現するためには、「公共空間の形成（ハード：主に官が実施）」だけでなく、魅力的なコンテンツを充実させて賑わいの創出に繋げるよう、整備された空間における「多彩な活動の推進（ソフト：主に民が実施、官が促進）」を両輪で進めていく必要があります。

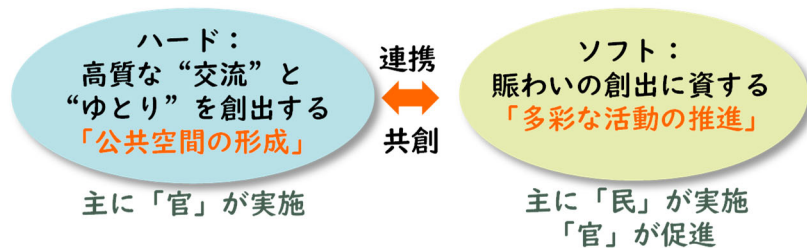


図 官民連携の取り組みイメージ

本市が実施する民間による利活用を見据えた道路空間再整備をきっかけとして、多様な人々が集まり、賑わいが生まれ、それによって様々な民間投資が呼び込まれ、さらに都市機能が高質化する、そして、そのことが人々を惹きつけ、呼び込み、賑わいがさらに高まっていく。こうした活性化の好循環（スパイラルアップ）を目指して取り組んでいきます。



図 活性化の好循環のイメージ

コラム① ウォークラブルなまちづくりの推進

近年、国内外では、道路を居心地よく歩きたくなる空間に再構成する気運が高まっており、わが国でも、「歩行者利便増進道路制度」や「まちなかウォークラブル推進事業」等の制度や支援を創設し、まちの活性化を目的とした道路空間の活用や歩行者中心の空間づくりを推進しています。

本市も、都心部における自動車交通量の減少傾向が続く状況にある中で、国の支援や制度を活用し、居心地が良く、歩いて巡りたくなる歩行者空間づくりを進め、都心全体に賑わいが広がる環境をつくるための取り組みを官民連携で進めています。

(本市における主な取り組み)

- ・令和元年度 国土交通省が募集した「ウォークラブル推進都市」に登録
- ・令和3年度 都市再生整備計画（まちなかウォークラブル推進事業）の策定
- ・令和4年度 歩行者利便増進道路※（ほこみち）を指定（定禅寺通、稲荷小路）

※ 歩行者利便増進道路は、「地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築」を目指すものであり、歩行者の安全かつ円滑な通行及び利便の増進を図り、快適な生活環境の確保と地域の活力の創造に資する道路を指定するもので、特例区域（利便増進誘導区域）を定めることで、道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められます。



図 広場化されたタイムズ・スクエア
(ニューヨーク)

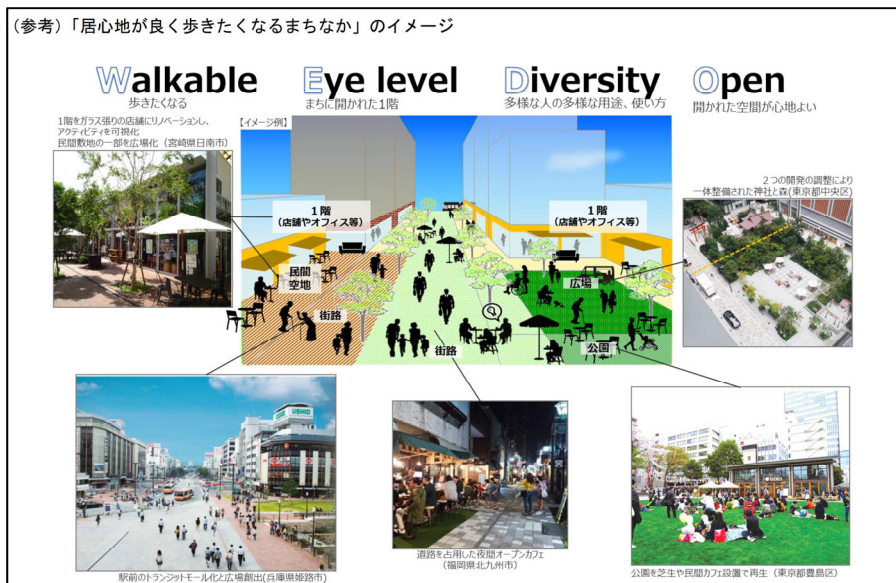


図 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」のイメージ
(出典：国土交通省 HP)

1.3. 本方針の目的と位置づけ

本方針は、定禅寺通エリアの活性化に向けて、本市が実施する定禅寺通再整備の方針を示し、公共空間を活用した賑わいや交流の創出など、官民連携による活性化の取り組みを促進することを目的とし、とりまとめたものです。

本方針は、「仙台市基本計画 2021-2030」及び「仙台市実施計画」に基づく「定禅寺通活性化推進事業」の取り組みとして実施する定禅寺通の再整備について、「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」に示されたまちづくりの理念、施策や取り組みの方向性を踏まえつつ、分野別・関連計画との整合・連携を図りながら、再整備の方向性や考え方、整備概要、整備スケジュール等を示すものです。

また、本市では、平成 11～13 年にかけて「定禅寺通シンボルロード整備事業」を実施し、道路空間のリニューアル、中央緑道の整備を行いました。本方針における再整備の方向性は、同事業におけるシンボルロード整備の考え方と整合させつつ、地域の方々が策定した基本構想における考え方も踏まえてとりまとめています。

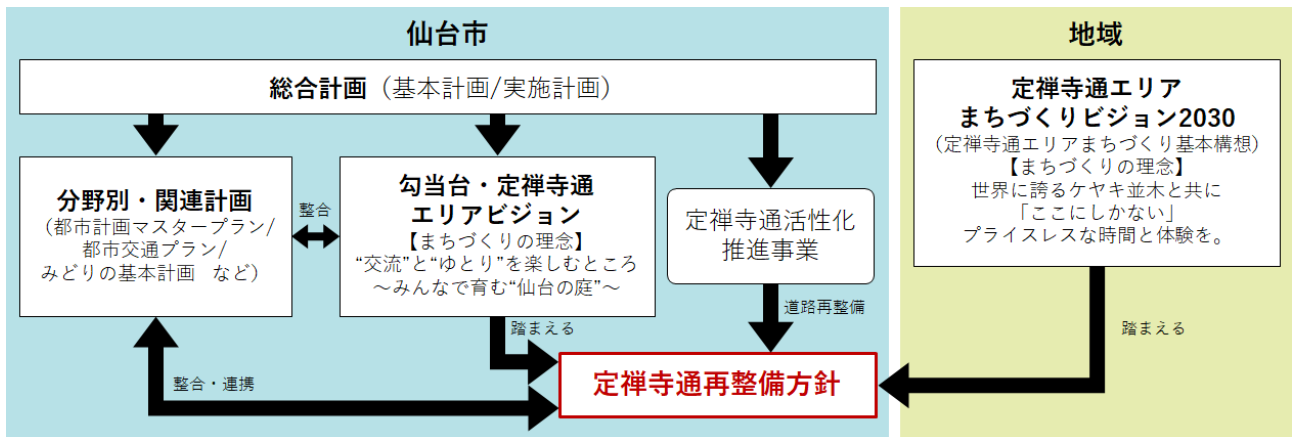


図 本方針の位置づけ

■ SDGs（持続可能な開発目標）との関係性

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、2015（平成 27）年の国連サミットで採択された 2030 年までの持続可能な開発目標です。SDGs が定める 17 のゴールのうち、4 つのゴール（3、11、15、17）が特に本方針に関連することから、同じ目的意識を持って本方針を推進することにより、SDGs の達成に貢献していきます。



歩行者・自転車・自動車にとって
安全な道路空間の確保



多様な人々が集まり賑わいを生む
公共空間の創出



ケヤキ並木の保全・継承によるみ
どりのネットワークの形成



官民のパートナーシップによるエ
リアマネジメント

2. 定禅寺通再整備方針

2.1. 定禅寺通再整備の方向性

2.1.1. エリア全体の方向性

- 「定禅寺通シンボルロード整備事業（平成11年度～平成13年度）」の考え方を継承し、本市のシンボルであるケヤキ並木を保全しながら、地域が策定した基本構想における考え方も踏まえて再整備を行います。

[再整備の方向性]

歩行者が安全・快適に通行・滞在でき、
豊かな時間を過ごすことができる
「ひと中心の空間」への転換

利活用しやすい広い空間・設備が整った、
多様なアクティビティが生まれる
環境づくり

定禅寺通においては、本市のシンボルであるケヤキ並木を継承しながら、①人々が安全・快適に通行・滞在することができる「ひと中心の空間」の形成を進めるとともに、②利活用しやすい広い空間と設備を整えることで、多様なアクティビティが生まれ、交流や賑わいの創出につながる環境づくりを行うため、車線削減を伴う道路空間再構成を実施します。

2.1.2. ゾーン別の方向性

- 定禅寺通エリアを創造ゾーン（西エリア）、交流ゾーン（東エリア）にゾーニングし、中央緑道を特色の異なる4つのスポットとして位置づけ、各ゾーンの目指す方向性や各スポットの特色や役割を踏まえた整備を行います。

各ゾーンや各スポットについては、地域の方々が策定した基本構想で示された視点を踏まえ、各ゾーンの目指す方向性をより具体化しつつ、各スポットの具体的な利用シーンを想定した特色や役割を整理しました。

創造ゾーン（西エリア）においては、「メディアテークや杜を中心に文化芸術とふれあいながら新しい文化を育む地区として落ち着いた雰囲気づくりをするゾーン」とするコンセプトは継承し、「若手アーティストの活動等に触れる機会や、子育て世帯を中心とした地域コミュニティの形成をきっかけとし、日常的な賑わいが生まれ、多様な人々が憩えるまち」を目指した再整備を実施します。

また、交流ゾーン（東エリア）においては、「定禅寺通全体の中でも特に多くの人々の集散の場となっていることから今後も人々の交流が盛んな地区として賑わいがあり明るい雰囲気づくりをするゾーン」とするコンセプトは継承し、「一番町や国分町とのつながりを意識した地域等の活動への周辺ワーカーの来訪をきっかけとして、多様な人々の交流があふれるまち」を目指した再整備を実施します。

エリア全体の方向性

- 定禅寺通のゾーン特性を生かしつつ、ケヤキを中心とした統一感あるシンボルロードとしての整備

- 勾当台公園から西公園、広瀬川へと、人々の憩いとなる公共空間の連続性の創出



歩行者が安全・快適に通行・滞在でき、豊かな時間を過ごすことができる「ひと中心の空間」への転換

利活用しやすい広い空間・設備が整った、多様なアクティビティが生まれる環境づくり

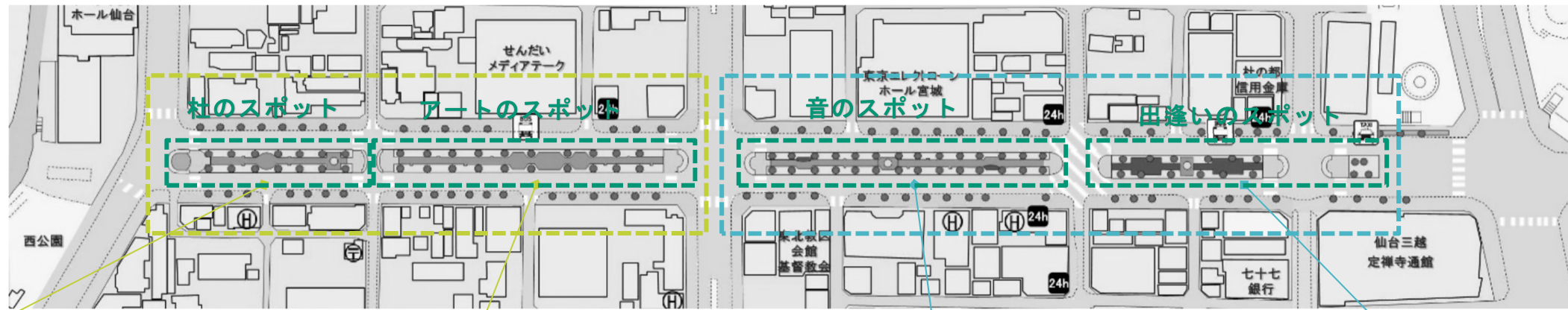
各ゾーンの方向性

創造ゾーン（西エリア）

- メディアテークや社を中心に文化芸術とふれあいながら新しい文化を育む地区として落ち着きある雰囲気づくりをするゾーン
- ✓ 若手アーティストの活動等に触れる機会や、子育て世帯を中心とした地域コミュニティの形成をきっかけとし、日常的な賑わいが生まれ、多様な人々が憩えるまち

交流ゾーン（東エリア）

- 定禅寺通全体の中でも特に多くの人々の集散の場となっていることから今後も人々の交流が盛んな地区として賑わいがあり明るい雰囲気づくりをするゾーン
- ✓ 一番町や国分町とのつながりを意識した地域等の活動への周辺ワーカーの来訪をきっかけとして、多様な人々の交流があふれるまち



各スポットの特色・役割

杜のスポット（西端ブロック）

- 杜の象徴青葉山や広瀬川、西公園等の自然環境への導入口となる静的な憩いの拠点
- 静かな緑地空間での休憩・散策が楽しめる拠点
- 日常的な交流を創出する空間づくり

アートのスポット（西中央ブロック）

- メディアテークと連帯感のあるアート感覚あふれる拠点
- アートを中心とした活動を実施・体験できるまとまりのある空間

音のスポット（東中央ブロック）

- ステージの拡大により多様な音楽活動等が行える拠点

出逢いのスポット（東端ブロック）

- 勾当台公園や東一番丁通から人を迎える待ち合わせ等集いの拠点
- インフォメーションや人の交流、小規模イベント等が行える賑わいある様々な出逢いの拠点
- マルシェ等が日常的に開かれる広い空間
- 多様なパフォーマンスが楽しめる空間

全スポット（共通）

- 空間活用のための給排水、電源設備の設置
- ケヤキの生育環境への配慮

利用シーン（想定）

杜のスポット



アートのスポット



音のスポット



出逢いのスポット



※「シンボルロード整備の考え方」をベースに作成。下線部が追加・修正をした項目

図 シンボルロード整備の考え方と再整備の方向性

2.1.3. 車線削減の考え方

(1) 車線削減の課題と段階的整備の考え方

- 地域が目指すまちづくりを加速させるためにも、まずは早期に実現可能な道路空間再構成を進めます。

地域の方々による検討においては、削減する車線数や、フルモール化／公園化、トランジットモール化、現状維持といった様々なパターンについて議論されてきました。

「道路空間再構成の3つのパターン」と各パターンに対する意見など				
	片側1車線削減	片側2車線削減	半断面車線廃止+片側1車線化	3つのパターン以外の意見
道路空間再構成の模式図				フルモール化/公園化 (車両全面通行禁止) トランジットモール化 (公共交通等のみ通行可能) 現状維持 (片側3車線)
パターンに対する評価の傾向	・「現実的」、「すぐにできそう」との意見が多い一方で、「今と変わらない」との意見も多数	・「歩道の広がり・活用への期待」がある一方で、「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も	・「広い空間・活用への期待」が多いが、「不公平感・バランスの悪さ」や「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も多数	
その他の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行空間の設置により歩行者の安全性が向上する一方で、自転車と停車車両の交錯の危険性を懸念 ・利活用のためのインフラ設備（上下水道、電気、トイレなど）の整備も必要 ・中央緑道の使いやすさや歩きやすさの向上（土舗装の改良など） ・ハード（空間整備）よりもソフト（コンテンツや規制緩和など）が重要 ・ケヤキ並木の保全・継承のあり方の検討が必要 ・荷物置きスペースの設置も必要 ・中央緑道と歩道の往來のしやすさの向上 			

図 地域で検討された道路空間再構成のパターン

(出典：定禅寺通エリアまちづくりビジョン 2030)

その結果、現状では大幅な車線削減には様々な課題があり、多様な関係者の理解等を要することから、基本構想では「空間利活用の熟度などに応じて、段階的に道路空間の再構成を図っていくこと」が提言されています。

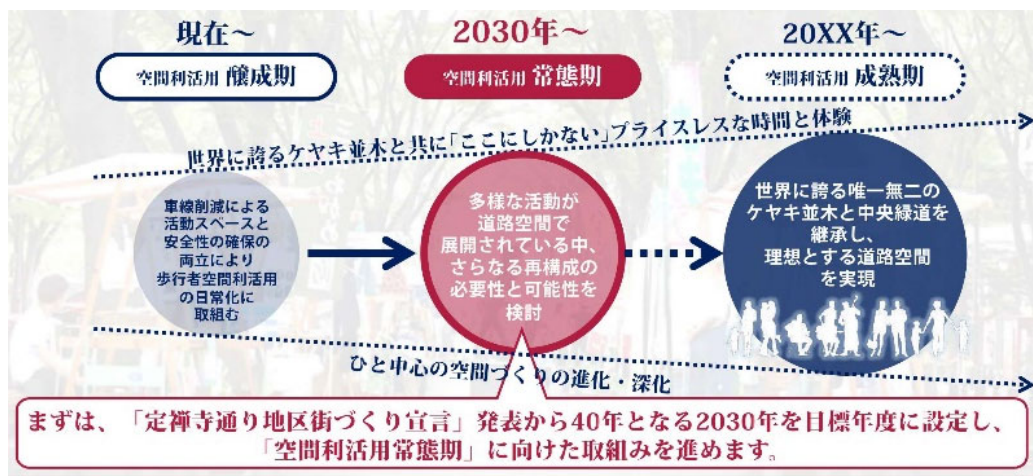


図 「ひと中心の空間づくり」のステップ

(出典：定禅寺通エリアまちづくりビジョン 2030)

道路空間再構成については、このようにこれまでも様々な意見がありましたが、車線削減にあたっては、自動車交通の安全性と円滑性の確保のほか、公共交通・物流車両等のための空間の確保や、沿道の土地利用との調整等が必要不可欠です。また、車線削減によって生み出された歩行者空間を利活用し、エリアの活性化につなげていくためには、地域の住民や企業も含めた気運の醸成も重要です。

例えば、片側2車線削減（完全片側1車線化）といった大幅な車線削減を行う場合、現状の自動車交通量では定禅寺通や周辺道路で混雑が生じることが見込まれる状況であり、来訪交通手段の公共交通等への転換等による定禅寺通エリアや都心部の自動車交通量の抑制が課題となります。

また、トランジットモール化（公共交通等のみ通行可能）やフルモール化／公園化（車両全面通行禁止）のように、一般車両の通行を禁止する場合は、完全片側1車線化よりも周辺道路における自動車交通流への影響がさらに大きいことに加え、沿道駐車場等への出入りや貨物車両の通行・停車ができなくなるため、自動車交通量の抑制のほか、沿道の土地利用の転換や貨物集配の仕組みづくり等も必要となります。

このように、車線削減を実施するには多くの課題がありますが、地域が目指すまちづくりを加速させるためにも、まずは早期に実現可能な道路空間再構成を進めます。

(2) 早期実現を目指す車線削減と歩行者空間拡大の概要

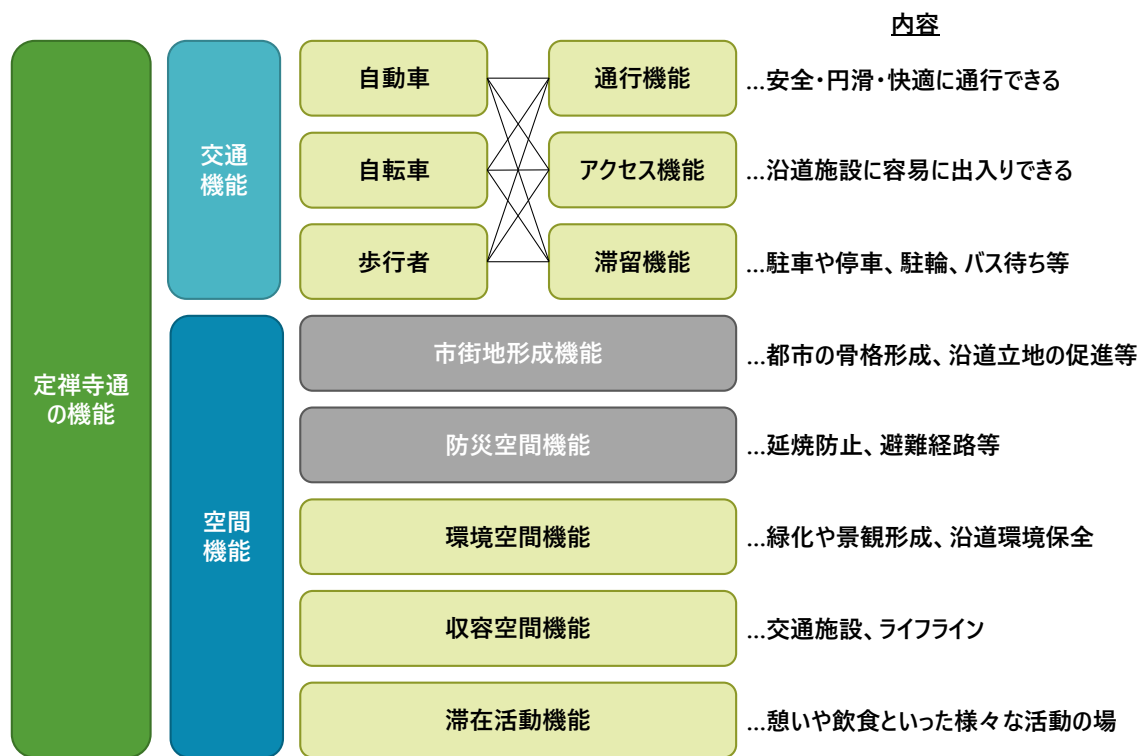
- 片側1車線削減を基本に、一部区間（西行き・立町エリア）で2車線削減します。
- 車線削減した空間を活用して歩行者空間を拡大します。
- バスベイや停車・荷捌きスペース等の必要な空間を確保するとともに、自転車通行空間を車道上に整備します。

早期に実現可能な道路空間再構成として、車線削減時の交通量推計結果や大規模社会実験時の交通量調査結果を踏まえ、自動車交通流に大きな影響が生じないことが見込まれる「片側1車線削減を基本に一部区間で2車線削減」することにより、歩行者空間を拡大するとともに、バスベイや停車・荷捌きスペース等の確保、自転車通行空間の整備を行います。

2.2. 定禅寺通の再整備の考え方

「通」や「道路」の機能については、一般的に、交通機能と空間機能に大別されています。交通機能としては、歩行者や自転車、自動車といった各種交通手段が安全、円滑、快適に通行できる通行機能と、沿道施設に容易に出入りできるというアクセス機能、駐車や停車などの滞留機能の3つの機能があるとされています。また、空間機能としては、市街地の形成や防災、環境形成、交通施設やライフラインの収容空間としての機能などがあるとされ、最近では令和2年5月の道路法改正で創設された「歩行者利便増進道路（通称“ほこみち”）」により、道路上での憩いや飲食といった様々な活動の場が創出できるようになり、空間機能の1つとして滞在活動機能が加えられています。これらの機能は、「通」が担うまちづくり上の機能と考えることができます。

以降、この「通」や「道路」の機能分類を用いて、定禅寺通が担う機能ごとに再整備の考え方を示します。なお、「市街地形成機能」及び「防災空間機能」については、現状で有する機能を再整備によって変えるものではなく、本方針ではそれ以外の各機能について考え方を示します。



※本方針では、 で示された各機能について、定禅寺通再整備における考え方を示します。

図 定禅寺通の機能分類

2.2.1. 交通機能の考え方

(1) 自動車

1) 通行機能

(車線構成)

- 片側1車線削減を基本とし、一部区間(西行き・立町エリア)で片側2車線削減を実施します。

《車線削減の考え方》

車線削減については、現在の自動車交通量に基づき車線削減した場合の交通量推計を行い、片側1車線削減を基本とした車線削減を実施しても周辺の道路や交差点における混雑等への大きな影響は生じないという分析結果が得られたことから、令和3年度に車線削減を伴う大規模社会実験を実施しました。大規模社会実験の交通量調査結果では、自動車交通量に大きな変化はなく、コロナ禍の影響による検証を踏まえても、社会実験の車線規制による自動車交通への大きな影響は生じなかったと言える分析結果が得られています。

当初、定禅寺通活性化検討会の議論を踏まえ、全線1車線化について検討を行いました。交通量推計の結果から、全線1車線化した場合、定禅寺通や周辺道路において混雑が生じることが懸念されました。一方、晩翠通から西側のエリアでは東側に比べ自動車交通量が少なく、立町エリア(図の片側2車線削減区間)を1車線化しても混雑の状況に変化はほとんど生じないという分析結果が得られました。また、立町エリアの沿道では歩道空間を活用した取り組みが継続的に実施されており、このような民間による取り組みを促進することがエリアの活性化につながることから、上記のような車線削減を行います。

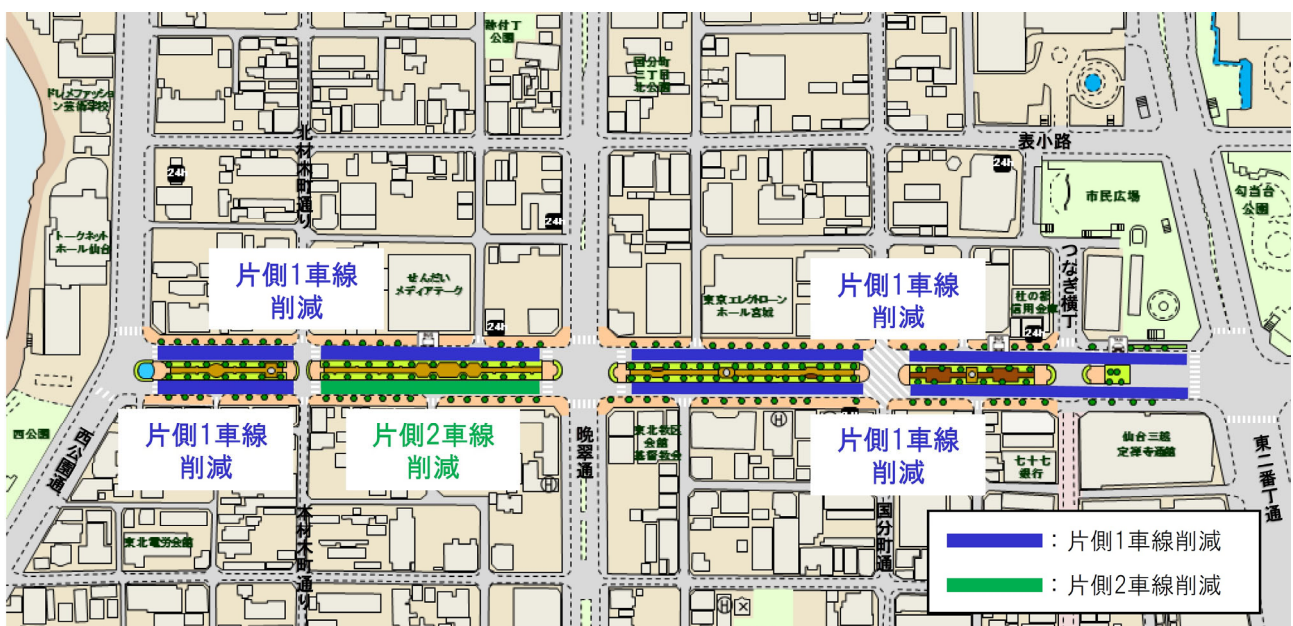


図 車線削減の概要

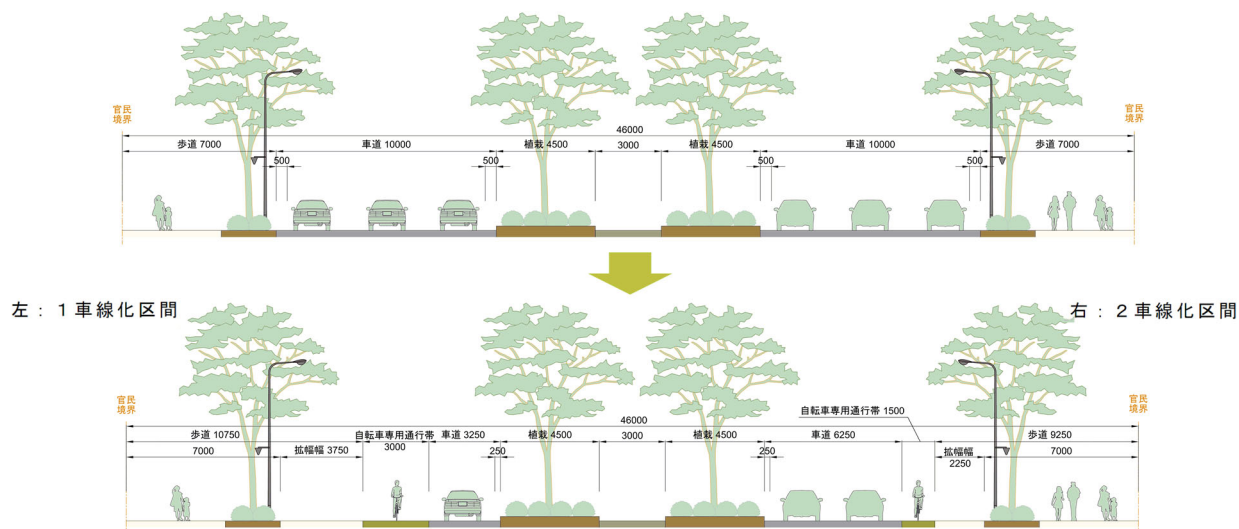


図 現況と再構成後の車線構成イメージ（上図：現況、下図：再構成）

2) アクセス機能

（乗入れ）

- 沿道駐車場等への出入りのため、現状で歩車道境界が乗入れ構造となっている箇所については、原則、現状の位置及び形状で設置します。

3) 滞留機能（バス・タクシー・停車・荷捌き）

（駐車・停車）

- 自転車専用通行帯を含む車線上に駐停車が行われないう、自転車専用通行帯の左側にバスベイやタクシー乗場、停車・荷捌きスペースを設置します。
- 深夜帯の客待ちタクシーの運用方式（タクシー「国分町 3way」方式）は、現行のルート・運用で継続します。
- 「停車・荷捌きスペース」は、停車（人の乗降など）のほか、沿道の経済活動に不可欠な貨物集配時の駐車にも利用可能（それ以外の「駐車」にあたる行為はこれまでと同様に禁止）なスペースとして設置します。設置にあたっては、トラック等も利用可能な規模として、長さ 12m のスペース（一般的な乗用車は 2 台駐車可能）を設けることを基本とし、可能な限り、各街区（信号交差点間）に 1 箇所設置することを基本とします。

《バスベイやタクシー乗場、停車・荷捌きスペースの設置箇所について》

道路交通法では、停車するときは道路の左側端に停めなければならないとされています。自転車専用通行帯も車道であるため、道路交通法に則れば自動車は自転車専用通行帯の上に停車しなければならないことになり、自転車通行の妨げとなってしまいます。そのため、自転車専用通行帯の左側に停車・荷捌きスペースを設けることにより、スムーズな停車等と自転車通行の両立を図りたいと考えています。

なお、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成 28 年 7 月（国土交通省・警察庁））によると、「パーキング・メーター等が必要な区間の自転車専用通行帯は、自転車と自動車の双

方の安全性を向上させるため、駐車スペースの車道側に設置するものとする。」とされています。この形状での整備をした際の自転車通行の安全性については、後述の通りです（P17 参照）。

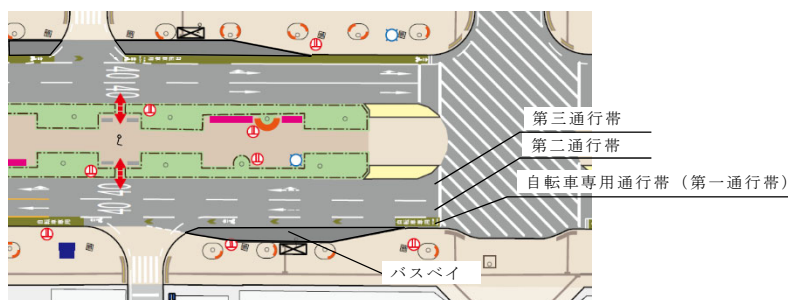


図 バスベイのイメージ

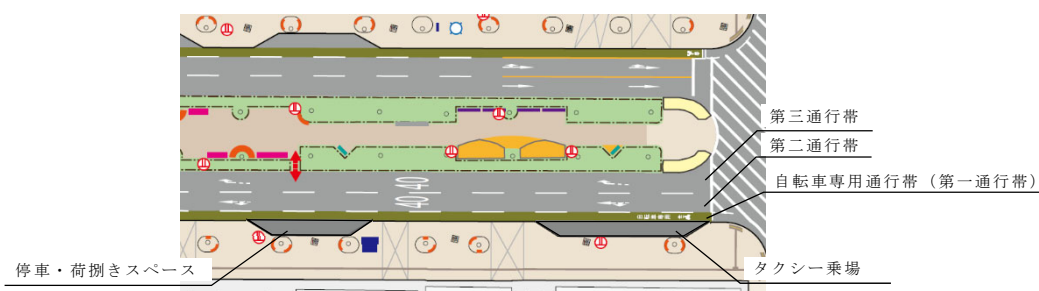


図 タクシー乗場・停車・荷捌きスペースのイメージ

(参考) 駐車及び停車に関するルール

駐車（道路交通法第2条第1項第18号）

車両等が客待ち、荷待ち、貨物の積卸し、故障その他の理由により継続的に停止すること（貨物の積卸しのための停止で五分を超えない時間内のもの及び人の乗降のための停止を除く。）、又は車両等が停止し、かつ、当該車両等の運転をする者（以下「運転者」という。）がその車両等を離れて直ちに運転することができない状態にあることをいう。

停車（道路交通法第2条第1項第19号）

車両等が停止することで駐車以外のものをいう。

停車又は駐車の方法（道路交通法第47条）

車両は、人の乗降又は貨物の積卸しのため停車するときは、できる限り道路の左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにしなければならない。

2 車両は、駐車するときは、道路の左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにしなければならない。

（以下略）



※22:30～翌3:00までタクシー乗場を定禅寺通と広瀬通に集約し、乗場に続くルートタクシーの待機レーンとして1車線使用しています。

図 タクシー「国分町 3Way」方式

(出典：(一社)宮城県タクシー協会仙台地区総支部資料(抜粋))

(2) 自転車

1) 通行機能

(自転車通行空間)

- 車線数を削減した空間に自転車専用通行帯(自転車レーン)を設け、車道上に自転車の通行空間を確保します。
- 「普通自転車歩道通行可」の規制を当面継続し、交通ルールの周知・マナー啓発を行いながら、自転車の車道走行を促していきます。

《自転車通行空間の整備形態について》

安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(平成28年7月(国土交通省・警察庁))及び仙台市自転車の安全な利活用推進計画(令和3年3月)に基づき、定禅寺通における自動車の交通量や速度を踏まえ、自転車専用通行帯を選定しました。

	A 自動車の速度が高い道路	B A,C以外の道路	C 自動車の速度が低く、 自動車交通量が少ない道路
自転車と自動車の分離	構造的な分離	視覚的な分離	混在
目安※	速度が50km/h超	A,C以外の道路	速度が40km/h以下、かつ 自動車交通量が4,000台以下
整備形態	自転車道	自転車専用通行帯	車道混在(自転車と自動車を 車道で混在)

※ 参考となる目安を示したものであるが、分離の必要性については、各地域において、交通状況等に応じて検討することができる。

図 交通状況を踏まえた整備形態の選定(完成形態)の考え方

(出典:安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(平成28年7月(国土交通省・警察庁))を加工)

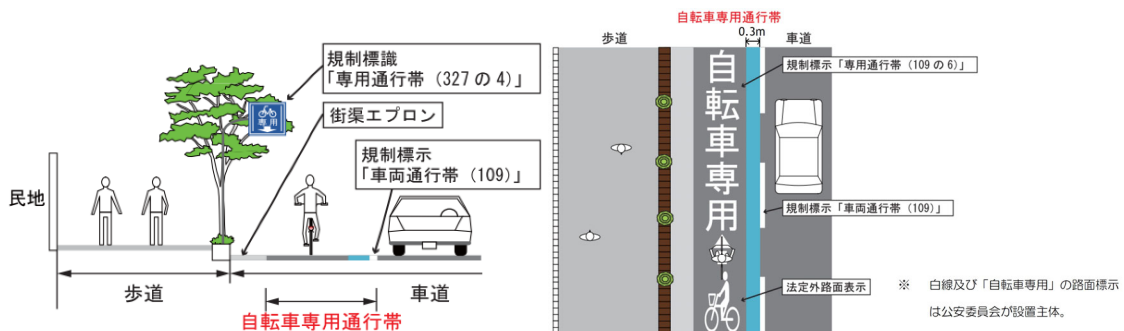


図 自転車専用通行帯の整備イメージ

(出典:自転車通行空間における法定外表示ガイドライン(仙台市))

《「普通自転車歩道通行可」の併用について》

交通規制を行う場合に必要な一般的基準を定めた「交通規制基準(警察庁)」では、自転車専用通行帯と普通自転車歩道通行可の規制の併用について、『交通実態、沿道状況、自転車利用者等の意見を踏まえ、必要と認められる場合に限って実施すること』とされています。

定禅寺通においては、令和3年度の大規模社会実験において、自転車と歩行者、又は自転車と自動車の錯綜状況を調査するとともに、歩行者や自転車利用者等に対し、自転車の車道走行に関するヒアリングを行いました。その結果、車道(自転車専用通行帯、矢羽根)における自転車と

自動車の錯綜（危険な状況）はほとんど見られなかった一方で、ヒアリング結果では、車道を走る不安や路上駐車があり走りにくかったなど、否定的な意見も挙げられました。このことから、当面の間、普通自転車歩道通行可の規制を継続し、自転車・自動車の運転手における自転車の通行及び自動車の駐停車に関するルールの認識やマナー意識の向上を図るとともに、徐々に自転車の車道走行を促すことが必要であると考えます。

（参考）自転車の車道走行の安全性について（令和3年度大規模社会実験における調査結果）

定禅寺通において、普通自転車歩道通行可の交通規制を解除し、自転車専用通行帯等を設置した際の、歩道及び車道における錯綜状況と交通ルール・マナーの違反状況について確認するとともに、歩行者及び自転車利用者等が利便性・安全性についてどのように感じたかについて、調査を実施しました。

【調査結果】

- 車道走行の自転車に、他の車両との錯綜はほとんど見られず、社会実験中、停車・荷捌きスペースを設けた状態であっても錯綜率も低下した。
- 錯綜が起きた際のルール・マナー違反は全て、自転車利用者によるものだった。
- 車道走行することについて安全・快適と感じた歩行者は約5割、自転車利用者は約2割。
- 歩行者からは安全性が高まった等の肯定的な意見が多いが、自転車利用者からは路上駐車が多くて危険等の否定的な意見も挙げられた。

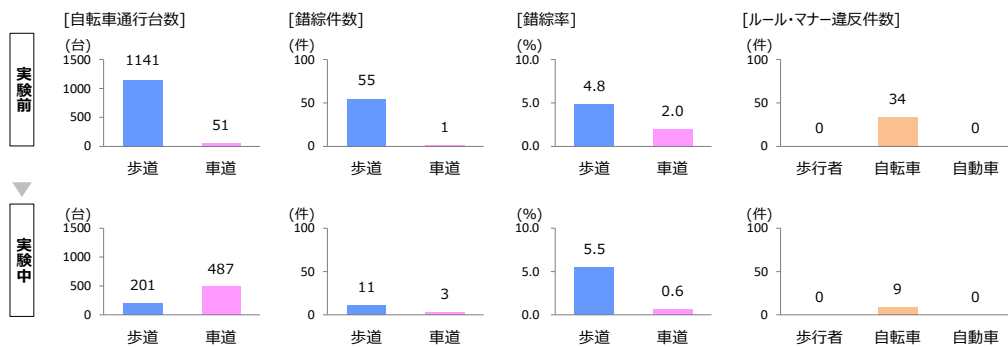


図 自転車の車道走行における錯綜等（ビデオ調査結果）

問 社会実験期間中 安全・快適になったか

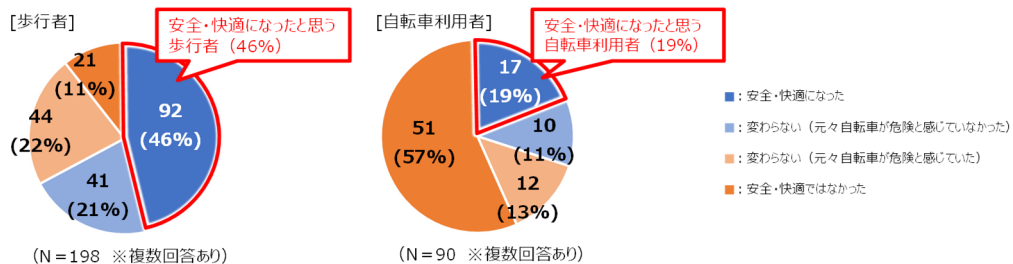


図 歩行者及び自転車利用者へのヒアリング結果

3) 滞留機能

(駐車)

- 道路空間上には自転車の駐輪施設は設けず、市営駐輪場または沿道施設の駐輪場を利用することとします。ただし、定禅寺通における自転車の駐輪施設の検討が必要となった場合には、設置の必要性や妥当性について関係者と協議することとします。

(参考) 市営駐輪場の配置及び仙台市自転車等放置防止条例について



市営駐輪場の配置及び放置自転車等放置禁止・規制区域

(出典：国土地理院地図を加工)

(放置自転車に関する取り組み)

本市では、路上への無秩序な駐輪による歩行妨害の抑止や良好な景観確保の観点から、条例に基づき、放置自転車の撤去を実施しています。

自転車放置禁止区域：公共の場所に放置された自転車・バイク等を即時撤去

自転車等放置規制区域：公共の場所に放置された自転車・バイク等を移動するよう利用者に命じ、命令に従って移動されない場合は撤去

放置：公共の場所において、自転車等の利用者又は所有者が自転車等から離れてこれを直ちに移動することができない状態

(3) 歩行者

1) 通行機能

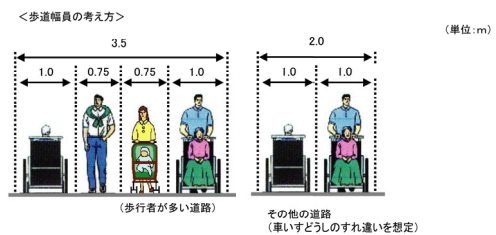
(歩道の通行空間)

- 車線数削減により、歩道を拡幅します。その際、歩行者の安全かつ円滑な通行を確保するため、通行空間として幅員 3.5m 以上確保し、視覚障害者誘導用ブロックを設置します。

(参考) 歩道幅員について

「歩道」の幅員（道路構造令第 11 条第 3 項）

歩行者の交通量が多い道路にあつては、3.5 m 以上、その他の道路にあつては 2 m 以上

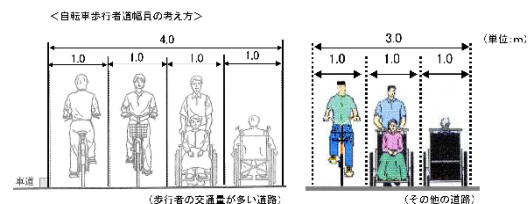


(出典：道路構造令の各規定の解説（国土交通省）)

『普通自転車歩道通行可』を継続する場合

「自転車歩行者道」の幅員（道路構造令第 10 条の 2 第 2 項）

歩行者の交通量が多い道路にあつては、4 m 以上、その他の道路にあつては 3 m 以上



(出典：道路構造令の各規定の解説（国土交通省）)

「歩行者利便増進道路」である定禅寺通において、「利便増進誘導区域」を指定する際は、その時点の歩行者通行量等に応じて確保すべき通行幅員の整理を行います。

(歩車道境界)

- 1 車線削減区間（2 車線化区間）については、セミフラット構造（車道と歩道の段差は 5cm）を基本とします。
- バス停部はマウントアップ構造（車道と歩道の段差は 15cm 以内）とします。
- 2 車線削減区間（1 車線化区間）については、イベント時には 1 車線削減区間と同様の幅員で活用できる等、フレキシブルな活用を可能とするため、フラット構造（車道と歩道の段差は 0 cm）とすることとします。歩車道境界は地先境界ブロック等により明示し、車両進入防止対策として防護柵等を設置することとします。

《歩車道境界の構造について》

定禅寺通再整備では、道路構造の一般的な技術基準等が記載されている「道路構造令の解説と運用」に基づき、セミフラット構造を採用します。セミフラット構造は、車両乗入れ部で波

打ち歩道とならないこと、降雨時に車道側から歩道側に雨水が流入しにくいなどのほか、バリアフリーの観点からも基本構造とされています。

また、マウントアップ構造は、バス停留所付近の歩道等におけるバス利用者の円滑な乗降などに適した構造とされています。

フラット構造については、車両乗入れ部での歩道等の段差や勾配の問題が生じないものの、視覚障害者は歩車道境界を確認しにくい、降雨時には、車道路面上の排水が歩道等に流入するおそれがあるとされています。

そのため、2車線削減区間については、仙台国際ハーフマラソン等広い幅員を使用するイベントへの対応として部分的にフラット構造としますが、視覚障害者等の安全な通行を確保するため、車道から十分離れた適切な位置に視覚障害者誘導用ブロックを設置し、降雨を適切に処理できるよう舗装や排水構造物の設計に配慮します。

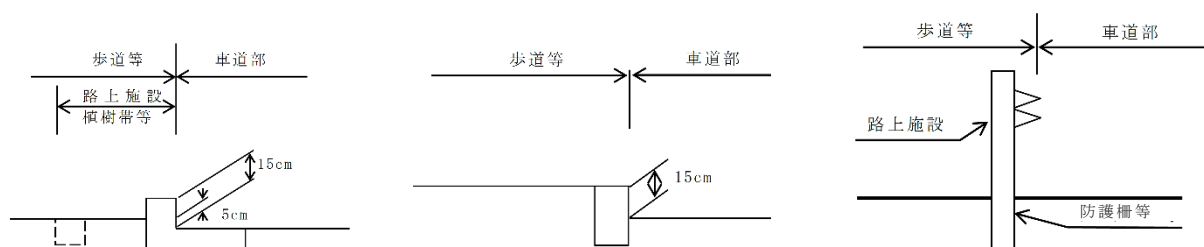


図 歩車道境界の一般的な構造（左：セミフラット、中央：マウントアップ、右：フラット）
（出典：仙台市歩道等設計基準）



図 防護柵等の設置イメージ（ポラード）

(横断歩道)

- 東一番丁通との交差点において、定禅寺通を挟んだ南北の往来と中央緑道間のアクセスを円滑にするため、交差点のスクランブル化（斜め横断可の横断歩道の設置）に向けて、信号機の設置時期等を交通管理者と調整したうえで交差点形状を変更します。
- 木町通本材木町通線（北材木町通り・本材木町通り）との交差点において、中央緑道を結ぶ横断歩道の設置に向けて、信号機の設置時期等を交通管理者と調整したうえで交差点形状を変更します。

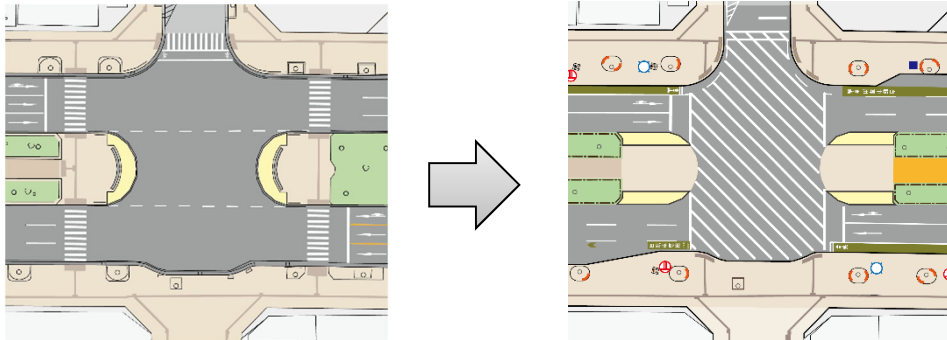


図 交差点のスクランブル化のイメージ（東一番丁通との交差点）

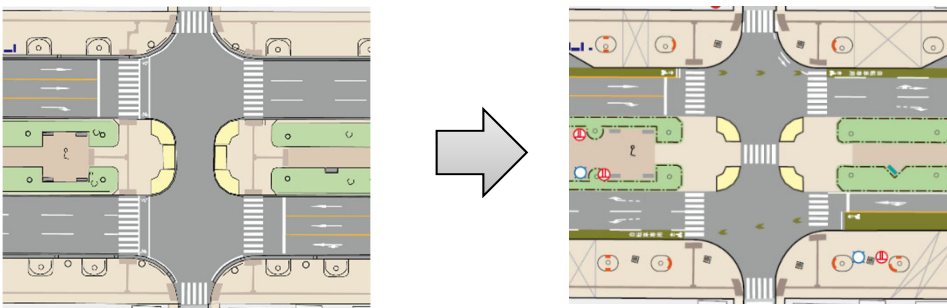


図 中央緑道を結ぶ横断歩道のイメージ（木町通本材木町線との交差点）

《交差点のスクランブル化について》

本市では、本庁舎の建替えを進めており、市民の皆様がより活用しやすい空間を目指して、新本庁舎敷地内広場と勾当台公園市民広場等（表小路やつなぎ横丁を含む）との一体的利活用に向けた検討を行っています。

現状では、市民広場から生まれる賑わいが定禅寺通や一番町アーケードへ波及しにくいという問題が指摘されており、本庁舎低層部と市民広場等の再整備後、そこで生まれる賑わいを、定禅寺通や一番町アーケードへ連続させること、それにより、本庁舎低層部と表小路、市民広場、つなぎ横丁、定禅寺通、一番町アーケードが一体的な賑わい空間となることが定禅寺通の活性化には重要であると考えます。

また、横断歩道がない箇所を斜め横断する歩行者が多く見られることから、定禅寺通を再整備するこの機会に交差点のスクランブル化（斜め横断可の横断歩道の設置）を行い、歩行者等の安全性の向上を図る必要があります。

2) アクセス機能

- 定禅寺通の通行止め（歩行者天国等）を伴うイベント等における活用を想定し、中央緑道の一般部（中間地点付近）に歩行者の出入口を設けることとします。なお、平常時は、柵等により出入りを防止して安全対策を行います。

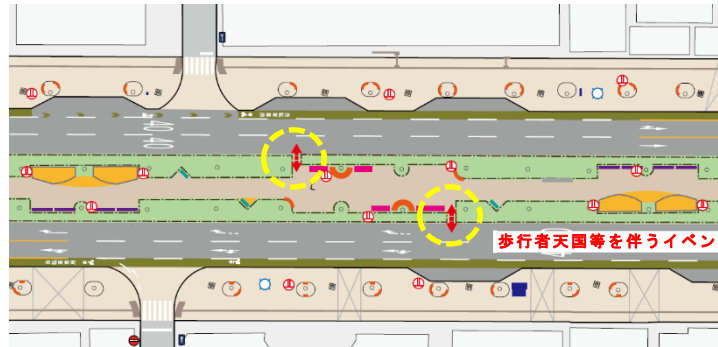


図 中央緑道への出入口の新設イメージ

3) 滞留機能

- 歩道の拡幅に伴い、横断歩道付近等における歩行者の滞留スペースが広がります。

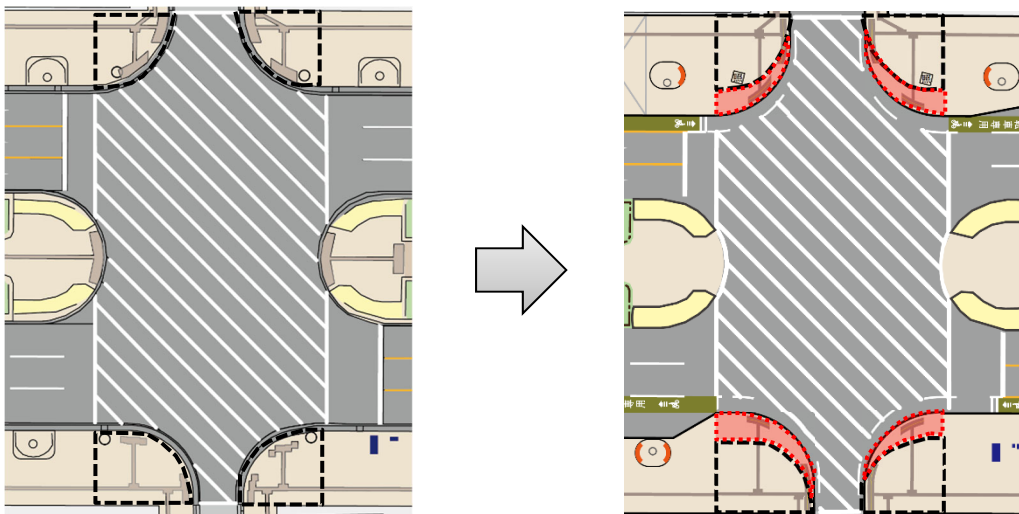


図 歩行者の滞留スペースの拡張のイメージ

2.2.2. 空間機能の考え方

(1) 環境空間機能

1) 街路樹（ケヤキ）

- ケヤキは現位置に保存することとし、ケヤキの根の分布状況等の調査（試掘調査）を行ったうえで、ケヤキの生育環境に配慮した整備を行います。
- ケヤキ並木の美観の確保や、歩行者や車両の通行の安全確保に必要な剪定等の維持管理に配慮した整備を行います。
- ケヤキの根上りを予防し、かつ、健全な生育環境を確保するため、歩道拡幅部の土壌改良や排水機能（浸透柵等）の整備を行います。
- ケヤキへの踏圧防止を図るため、歩道部の防護柵（ツリースーカル）をリニューアルするとともに、中央緑道の植栽帯には立入防止の対策を行います。

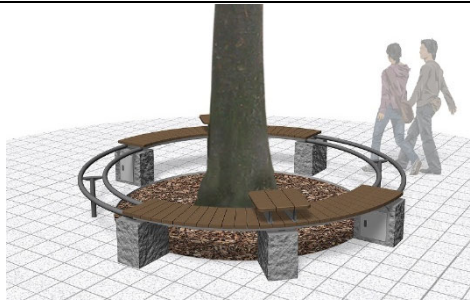


図 防護柵のイメージ図

2) 低木・地被類の植栽

- 歩道のケヤキの植樹柵内への低木や地被類の植栽は、ケヤキ根際の視認性を悪化させ、問題の発生を見落とす原因ともなるため、行わないこととします。
- 中央緑道の植栽帯には低木や地被類の植栽を行うこととし、景観の向上を念頭に樹種等を選定します。ただし、歩道と同様、ケヤキの根際への植栽は避けるとともに、歩行者やイベント参加者などが踏み込まないように対策を行います。

3) 花壇

- 横断歩道のスクランブル化に合わせて、既存の花壇を移設し、季節の彩りを確保します。

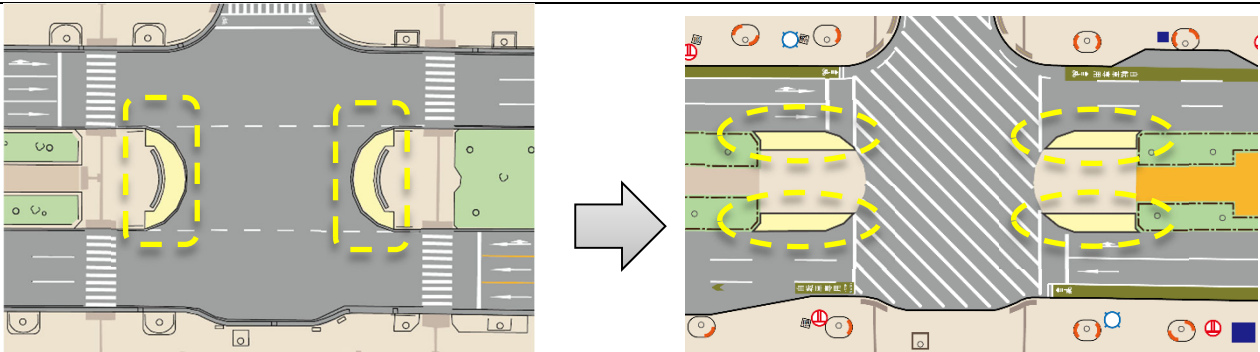


図 花壇の移設（移設前→移設後）

4) 舗装デザイン

- 歩道の舗装は、シンボルロードとしての景観を維持しつつ、ケヤキや周辺の建造物に馴染む色彩とするため、暖かみのあるベージュ系とし、素材は天然石など上質感のある材料を使用します。また、視覚障害者誘導用ブロックは、景観への配慮から黄色以外を採用します。
- 舗装のデザインは、通行空間や滞在・利活用空間を視覚的に把握できるように配慮します。
- 細街路との交差部（巻き込み部）における舗装は、歩道部との一体性を高め、歩行者空間の連続性を確保するため、歩道部の舗装と統一性のあるデザインを採用します。
- 中央緑道では、歩行や滞在の快適性を向上するため、路面の舗装やウッドデッキを整備します。舗装等の材質や構造は、管理車両の通行や透水性に配慮したものを採用します。

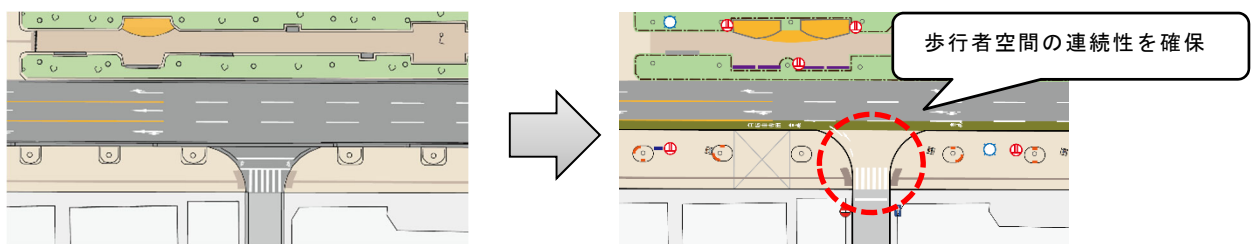


図 細街路との交差部（巻き込み部）のイメージ

5) 照明

- 道路照明灯及び街路灯は、既存の設備を活用することとし、耐久性を高めるため再塗装を行います。また、夜間における沿道の視認性を高め、通行者の安心感を向上させるとともに、歩きたくくなるような変化・リズムのある空間とするため、歩道のツリーサークルベンチ等に照明を設置します。
- 中央緑道の照明施設は、既存のフットライト・アプローチライトは活用しつつ、夜間においてもシンボルであるケヤキ並木を感じられるよう、緑道の出入り口等にケヤキを照らす照明等を、既存イベントとの連携等も踏まえて整備します。また、ひと気が感じられる夜間景観とするため、ベンチ周りなどの滞在空間等にも部分的に照明を設置します。
- 照明の整備にあたっては、既存設備のLED化等による省エネルギー化を図ります。

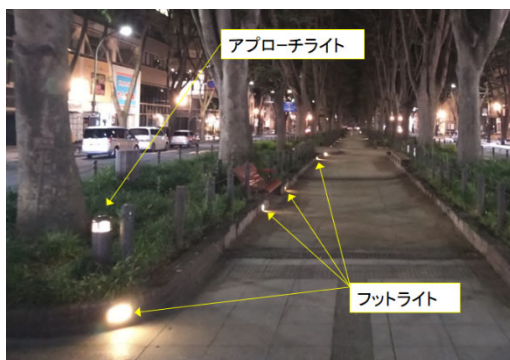


図 中央緑道のフットライト・アプローチライト

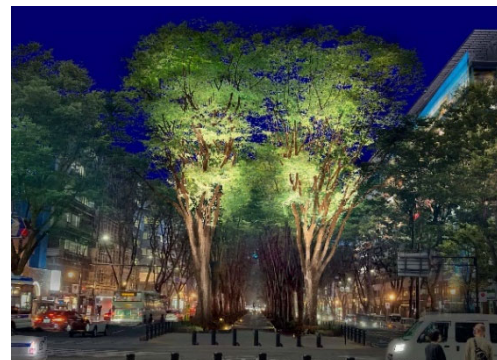


図 ケヤキを照らす照明のイメージ

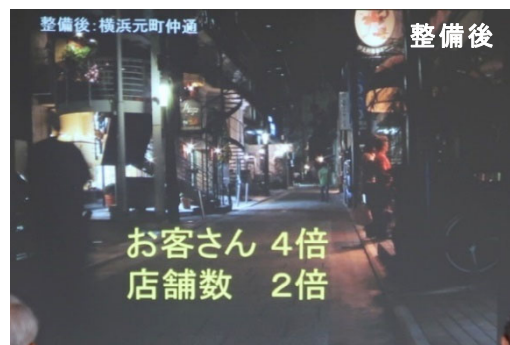
コラム② 人を惹きつける街灯りについて（検討会の取り組み）

人を惹きつける街灯りのポイントを学ぶ、魅力的な夜の景観ワーキンググループを、令和元年7月24日(水)に開催しました。29名の会員にご参加いただき、講師・角館まさひで先生*によるレクチャーと質疑、照明デモンストレーションにより、定禅寺通りの照明の在り方について考えました。

【レクチャー概要】

超高層の複合型商業施設(大阪・あべのハルカス)のライティングや、商店街(横浜・元町など)・広場(大阪・天王寺公園など)の照明計画、道路(池袋・グリーン大通など)の照明実験、観光地(石川・和倉温泉など)・被災地(気仙沼・内湾地区など)での照明演出など、角館氏が手がける照明デザイン・コンサルタントの事例を基にした、「ひと気を感じる景観」「記憶に残る景観」をつくる手法と、その効果についての講義により、「人を惹きつける（賑わいを呼ぶ）夜の景観」とするためには、「ひと気を感じることで安心感を得られることが大切」、「発見のある街は、人のアクティビティが増幅し、散策する人が増える傾向にある」ということを学びました。横浜市元町の事例では、沿道各店舗によるボイド照明と共通仕様での突き出し看板の設置により、沿道店舗の視認性を向上させたことで、様々な発見が増幅し、お客さんが4倍に、店舗数が2倍になったそうです。

〈元町仲通りのモデル実験と整備後〉



【照明デモンストレーション概要】

- ・定禅寺リビングストリートの社会実験と連動させ、民地の電源を借りて公共空間を演出。
- ・ひと気が感じられるようテーブルセットやツリーサークル周りを灯し、座った人が通りの風景となり印象に残る空間となった。
- ・直線的な歩道から空間の変化を造る事によって視線の変化が起こり、ひとが散策したくなるような歩道となった。



*ぼんぼり光環境計画株式会社代表、照明家、東京都市大学客員教授

(2) 収容空間機能

1) バス停上屋

- 良好な景観形成を図るため、再整備に合わせて既存のバス停上屋（「定禅寺通市役所前」バス停）をリニューアルします。上屋のデザインは、安全性や周辺のまちなみに配慮し、広告付き上屋とせず、シンプルな形状かつ周辺と調和する色彩とします。なお、バス停へのエリアマネジメント広告の掲示については、エリアマネジメント活動の自立的継続のための有効な手段の一つであると考えますが、その実施にあたっては、景観まちづくり協議会（定禅寺通街づくり協議会）との協議・調整等、地域での合意形成が行われ、かつ必要な各種許認可が得られたものである必要があります。

《定禅寺通における広告物の取扱いについて》

仙台市では、定禅寺通における広告物の設置については、地区計画や景観地区の指定によるまちづくりの方向に合わせ、表示できる広告物等の内容や形態、種類、色彩等について独自の制限を行うとともに、定禅寺通地区の街並みと調和するよう指導及び助言を行い、良好な景観形成を目指しています。定禅寺通は、仙台市屋外広告物条例に基づく広告物モデル地区に指定されており、定禅寺通で屋外広告物の表示を行おうとする場合は、広告物整備計画に定める目標及び指針、広告物美観維持基準（掲出可能な広告物、総量の制限等）に照らして、許可又は届出が必要になります。

なお、現状の広告物に関するルールでは、定禅寺通のバス停上屋には広告物を設置することはできませんが、エリアの活性化の観点から、エリアマネジメント広告による収益を、地域課題の解決や多様なプレーヤーによる空間利活用の取り組みへの中間支援等のまちづくりに還元するようなエリアマネジメント活動は必要であり促進すべきものであると考えます。

※定禅寺通広告物モデル地区における広告物美観維持基準（抜粋）

（掲出可能な広告物）

市道定禅寺通線に面して掲出できる広告物等は次のものに限る。ただし、街路灯に掲出するフラッグについては、街の賑わいの創出や各種イベントを支援するためのもので、杜の都の風土を育む景観条例（平成7年仙台市条例第5号）に規定する景観まちづくり協議会として認定された定禅寺通街づくり協議会が認め、市長の許可を受けたものはこの限りでない。

- ① 自己の氏名、名称、店名若しくは商標又は自己の事業若しくは営業の内容を示すため、自己の住所、事業所、営業所、又は作業所に表示し、又は設置する広告物等
- ② 前記に掲げるもののほか、自己の管理する土地または物件に管理上の必要に基づき表示し、又は設置する広告物等

2) ライフライン

- 定禅寺通は、無電柱化路線となっており、電力供給施設の地上機器が歩道上に設置されています。現状、ケヤキの植樹樹の間の空間に設置されており、再整備後も通行の支障とならないため、地上機器の移設は行わないこととします。



図 地上機器の設置状況

(3) 滞在活動機能

1) 歩道内の滞在・利活用空間の配置

- 必要な通行空間を確保したうえで、歩道内に滞在や利活用可能な空間（以下、「滞在・利活用空間」という。）を配置します。
- 滞在空間・利活用空間の配置にあたっては、沿道の利活用のニーズ等を反映した歩道内の空間配置を行います。空間の配置については、建物側に必要な通行空間（幅員 3.5m 以上）を確保し、車道側を滞在・利活用空間とする配置（パターンA）を基本とします。沿道に利活用のニーズがあり、かつ、前後の空間配置を踏まえて連続的な通行空間が確保できる場合は、建物側にも滞在・利活用空間を配置するパターン（パターンBやパターンC）を採用します。

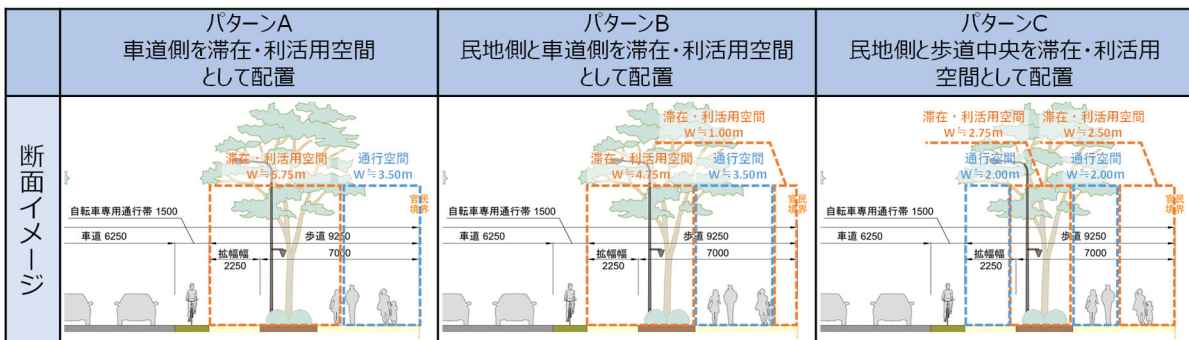


図 滞在・利活用空間の配置パターン

《パターンAの配置について》

沿道店舗等による利活用を前提としたパターンBやCに対して、パターンAは沿道店舗等に限定しない様々な主体による利活用が推進されやすい配置と考えます。まずは、パターンAの配置を基本とすることで、多様な主体による賑わいづくりを促進し、道路空間利活用についての気運が更に醸成し、沿道を中心とした利活用意向が見えてきたタイミングでパターンBやCへの移行を検討することとします。

コラム③ 道路空間等の利活用について（検討会の取り組み）（1/2）

【定禅寺通における道路空間利活用（各年度抜粋）】

定禅寺通活性化検討会では、これまで、民間主体による様々な取り組みを実践してきました。

令和元年度（2019年度）～

■ LIVING STREET PROJECT：立町エリアの歩道の一部

目的：地域住民等による日常的なコミュニケーションの場として利用されることで、地元コミュニティの強化、若者の出店希望などの愛着を育む。

内容：歩道に誰でも自由に利用できるテーブルと椅子を設置。不定期にマルシェを開催。



■ 定禅寺ストリートアライアンス：国分町三丁目エリアの歩道の一部

目的：将来的に、歩道の利活用により収益を確保し、それをまちづくりに還元していく仕組みづくりを行う。

内容：沿道不動産オーナーやテナントなどへの意欲醸成や利活用による収益性を確認するため、パークレットの設置や出店イベントを実施。



※「パークレット」とは、柵や机・椅子、プランターなどで構成され、車道の一部等を活用して生み出す滞留・休憩スペース

令和2年度（2020年度）～

■ イナトラほろ酔い縁日：虎屋横丁、稲荷小路

目的：“安心・安全な食のまち” 虎屋横丁・稲荷小路を発信するため、自転車および歩行者用道路となる規制「酔っぱらい天国」を活かした軒先テラスの常設化による賑わいづくりと定禅寺通への波及効果を目指す。

内容：虎屋横丁・稲荷小路エリアに、エリアの飲食店利用客が自由に利用できるテーブル・椅子を設置。

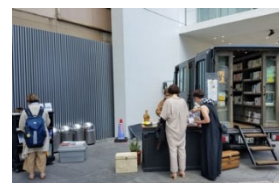
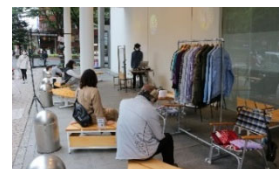


令和3年度（2021年度）

■ Green Activity：沿道建物のオープンスペース

目的：単発イベントによる集客に頼らない賑わいづくりを目指し、空間利活用の試行を通じて、沿道パブリックスペースの活用の可能性を探る。

内容：ミュージックやアート、ファッションなどの要素を組み合わせた複合型カルチャースペースの定期開設。



コラム③ 道路空間等の利活用について（検討会の取り組み）（2/2）

令和3年度（2021年度）

■アートな街・定禅寺通：中央緑道（西側）

目的：アーティストの活躍の場を提供し、市民が気軽にアートに触れ・楽しむ機会をつくることで、「アートの街・定禅寺通」を発信・浸透させ、定禅寺通エリアの魅力向上につなげる。

内容：中央緑道でのアート出店イベントを開催。



【定禅寺通エリアまちづくり基本構想に示された空間イメージ】

上記のような取り組みを経て、基本構想には「2030年までには実現したい空間イメージ」が示されており、利活用空間において様々な利活用がなされ、人々が定禅寺通で豊かに過ごしている様子が描かれています。



図 まちづくり基本構想に示されたイメージ（西エリア）

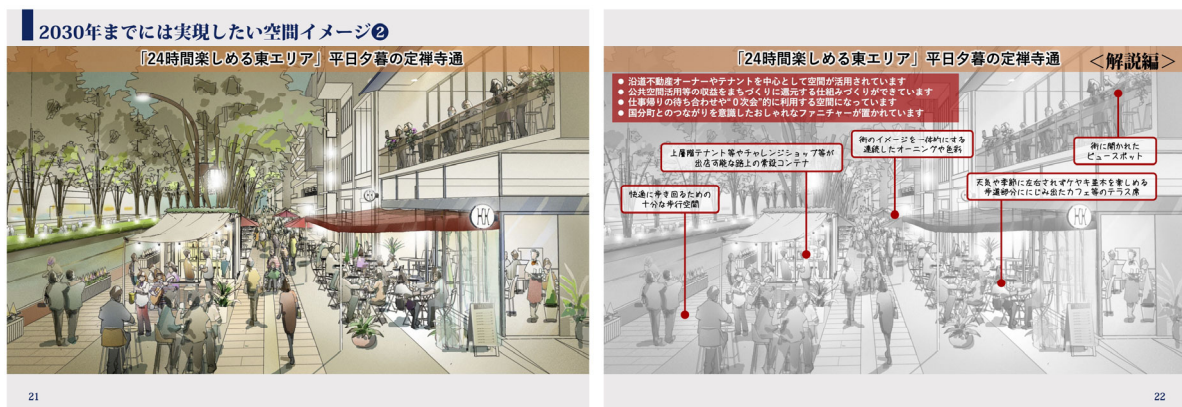


図 まちづくり基本構想に示されたイメージ（東エリア）

2) 中央緑道の滞在・利活用空間の配置

- 中央緑道における、多様な利活用や快適な滞在のためのスペースを確保するため、植栽スペースの見直しを行い、滞在空間の拡張を行います。ただし、空間の見直しにあたっては、ケヤキの根の調査を行ったうえで、ケヤキの生育環境への影響を考慮して整備方法や整備範囲を決定するものとします。

3) 滞在用設備（ベンチ等）

- 歩道における滞在しやすさや歩行者の利便性等の向上を図るため、ツリーサークルはベンチを取付けできる構造を採用し、利活用空間や交差点、バス停付近など、歩行者等の滞留状況を踏まえてベンチを配置します。なお、その維持管理については、沿道の協力を得る等、官民連携での管理を前提とした仕組みが必要だと考えています。
- 中央緑道における滞在しやすさ等の向上を図るため、各スポットの特徴等を踏まえて、ベンチの形状や配置の見直しを行います。
- ベンチの配置にあたっては、利用者からの景色や外部の視線、利用者の距離間、目の高さ、向かい合った位置などに配慮し、利用者が憩い、落ち着ける空間となるように配置します。

《ツリーサークルベンチの維持管理について》

現状の定禅寺通におけるツリーサークルベンチについて、この空間を居心地の良い空間とするためには、ベンチや周辺環境の美化など、きめ細かな日常的な維持管理が課題となります。ベンチは地域の要望を受けた配置としていますが、沿道の協力の下維持管理を行いつつ、沿道利活用のニーズに合わせてベンチの配置を変更するなどの更新が可能な構造とするため、ベンチの取付け、取外しができる構造を採用します。



図 ツリーサークルベンチ（イメージ）

4) 利活用設備（イベント用電源・給排水設備等）

- 道路空間や中央緑道の利活用しやすさを向上するため、イベント用電源や給排水設備の設置（既存施設の見直しを含む）を行います。配置にあたっては、利活用可能な空間を考慮した上で計画するものとします。
- 電源設備の配置については、民間によるイベントや夜間照明の演出にも活用できるように配慮することとします。

《イベント用電源や給排水設備の配置について》

イベント団体等へのヒアリングを踏まえ、利活用可能な空間を考慮した上でイベント用電源は20m程度に1箇所（10mのドラムで使用できる範囲）配置するとともに、給排水設備は各緑道や信号交差点間に1箇所程度（一定の区間で水が汲めるよう配慮）設置することを想定しています。

給水設備（例）



排水設備（例）



電源設備（例）



給排水設備の設置イメージ



図 給排水設備・電源設備のイメージ

2. 定禅寺通再整備方針

2.1. 定禅寺通再整備の方向性

2.1.1. エリア全体の方向性

- 「定禅寺通シンボルロード整備事業（平成11年度～平成13年度）」の考え方を継承し、本市のシンボルであるケヤキ並木を保全しながら、地域が策定した基本構想における考え方も踏まえて再整備を行います。

[再整備の方向性]

歩行者が安全・快適に通行・滞在でき、
豊かな時間を過ごすことができる
「ひと中心の空間」への転換

利活用しやすい広い空間・設備が整った、
多様なアクティビティが生まれる
環境づくり

定禅寺通においては、本市のシンボルであるケヤキ並木を継承しながら、①人々が安全・快適に通行・滞在することができる「ひと中心の空間」の形成を進めるとともに、②利活用しやすい広い空間と設備を整えることで、多様なアクティビティが生まれ、交流や賑わいの創出につながる環境づくりを行うため、車線削減を伴う道路空間再構成を実施します。

2.1.2. ゾーン別の方向性

- 定禅寺通エリアを創造ゾーン（西エリア）、交流ゾーン（東エリア）にゾーニングし、中央緑道を特色の異なる4つのスポットとして位置づけ、各ゾーンの目指す方向性や各スポットの特色や役割を踏まえた整備を行います。

各ゾーンや各スポットについては、地域の方々が策定した基本構想で示された視点を踏まえ、各ゾーンの目指す方向性をより具体化しつつ、各スポットの具体的な利用シーンを想定した特色や役割を整理しました。

創造ゾーン（西エリア）においては、「メディアテークや杜を中心に文化芸術とふれあいながら新しい文化を育む地区として落ち着いた雰囲気づくりをするゾーン」とするコンセプトは継承し、「若手アーティストの活動等に触れる機会や、子育て世帯を中心とした地域コミュニティの形成をきっかけとし、日常的な賑わいが生まれ、多様な人々が憩えるまち」を目指した再整備を実施します。

また、交流ゾーン（東エリア）においては、「定禅寺通全体の中でも特に多くの人々の集散の場となっていることから今後も人々の交流が盛んな地区として賑わいがあり明るい雰囲気づくりをするゾーン」とするコンセプトは継承し、「一番町や国分町とのつながりを意識した地域等の活動への周辺ワーカーの来訪をきっかけとして、多様な人々の交流があふれるまち」を目指した再整備を実施します。

エリア全体の方向性

- 定禅寺通のゾーン特性を生かしつつ、ケヤキを中心とした統一感あるシンボルロードとしての整備

- 勾当台公園から西公園、広瀬川へと、人々の憩いとなる公共空間の連続性の創出



歩行者が安全・快適に通行・滞在でき、豊かな時間を過ごすことができる「ひと中心の空間」への転換

利活用しやすい広い空間・設備が整った、多様なアクティビティが生まれる環境づくり

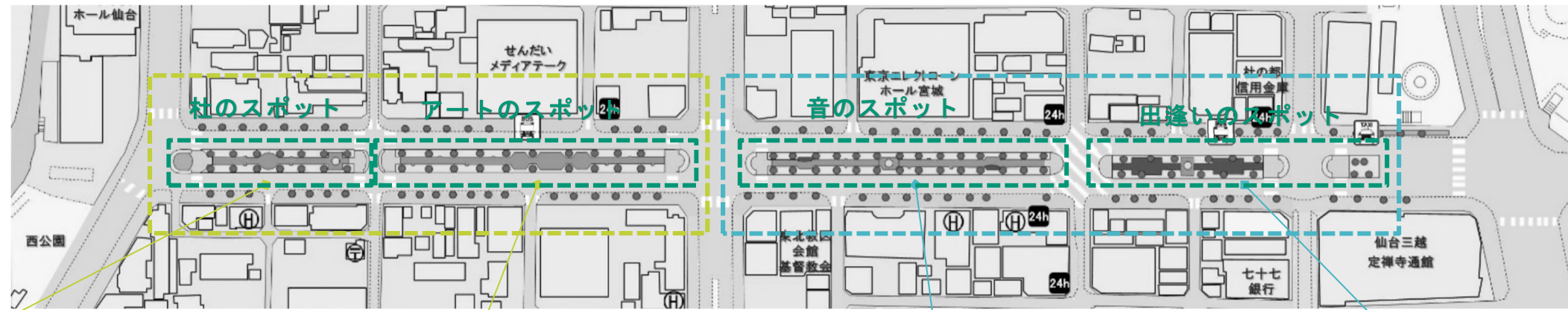
各ゾーンの方向性

創造ゾーン（西エリア）

- メディアテークや社を中心に文化芸術とふれあいながら新しい文化を育む地区として落ち着きある雰囲気づくりをするゾーン
- ✓ 若手アーティストの活動等に触れる機会や、子育て世帯を中心とした地域コミュニティの形成をきっかけとし、日常的な賑わいが生まれ、多様な人々が憩えるまち

交流ゾーン（東エリア）

- 定禅寺通全体の中でも特に多くの人々の集散の場となっていることから今後も人々の交流が盛んな地区として賑わいがあり明るい雰囲気づくりをするゾーン
- ✓ 一番町や国分町とのつながりを意識した地域等の活動への周辺ワーカーの来訪をきっかけとして、多様な人々の交流があふれるまち



各スポットの特色・役割

杜のスポット（西端ブロック）

- 杜の象徴青葉山や広瀬川、西公園等の自然環境への導入口となる静かな憩いの拠点
- 静かな緑地空間での休憩・散歩が楽しめる拠点
- 日常的な交流を創出する空間づくり

アートのスポット（西中央ブロック）

- メディアテークと連帯感のあるアート感覚あふれる拠点
- アートを中心とした活動を実施・体験できるまとまりのある空間

音のスポット（東中央ブロック）

- ステージの拡大により多様な音楽活動等が行える拠点

出逢いのスポット（東端ブロック）

- 勾当台公園や東一番丁通から人を迎える待ち合わせ等集いの拠点
- インフォメーションや人の交流、小規模イベント等が行える賑わいある様々な出逢いの拠点
- マルシェ等が日常的に開かれる広い空間
- 多様なパフォーマンスが楽しめる空間

全スポット（共通）

- 空間活用のための給排水、電源設備の設置
- ケヤキの生育環境への配慮

利用シーン（想定）

杜のスポット



アートのスポット



音のスポット



出逢いのスポット



※「シンボルロード整備の考え方」をベースに作成。下線部が追加・修正をした項目

図 シンボルロード整備の考え方と再整備の方向性

2.1.3. 車線削減の考え方

(1) 車線削減の課題と段階的整備の考え方

- 地域が目指すまちづくりを加速させるためにも、まずは早期に実現可能な道路空間再構成を進めます。

地域の方々による検討においては、削減する車線数や、フルモール化／公園化、トランジットモール化、現状維持といった様々なパターンについて議論されてきました。

「道路空間再構成の3つのパターン」と各パターンに対する意見など				
	片側1車線削減	片側2車線削減	半断面車線廃止+片側1車線化	3つのパターン以外の意見
道路空間再構成の模式図				フルモール化/公園化 (車両全面通行禁止) トランジットモール化 (公共交通等のみ通行可能) 現状維持 (片側3車線)
パターンに対する評価の傾向	・「現実的」、「すぐにできそう」との意見が多い一方で、「今と変わらない」との意見も多数	・「歩道の広がり・活用への期待」がある一方で、「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も	・「広い空間・活用への期待」が多いが、「不公平感・バランスの悪さ」や「渋滞など交通への影響」を懸念する意見も多数	
その他の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行空間の設置により歩行者の安全性が向上する一方で、自転車と停車車両の交錯の危険性を懸念 ・利活用のためのインフラ設備（上下水道、電気、トイレなど）の整備も必要 ・中央緑道の使いやすさや歩きやすさの向上（土舗装の改良など） ・ハード（空間整備）よりもソフト（コンテンツや規制緩和など）が重要 ・ケヤキ並木の保全・継承のあり方の検討が必要 ・荷物スペースの設置も必要 ・中央緑道と歩道の往來のしやすさの向上 			

図 地域で検討された道路空間再構成のパターン

(出典：定禅寺通エリアまちづくりビジョン 2030)

その結果、現状では大幅な車線削減には様々な課題があり、多様な関係者の理解等を要することから、基本構想では「空間利活用の熟度などに応じて、段階的に道路空間の再構成を図っていくこと」が提言されています。

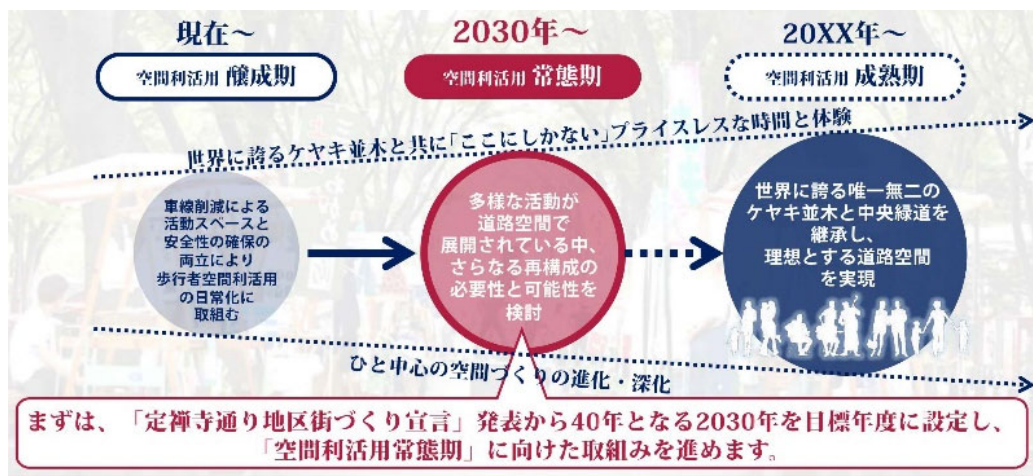


図 「ひと中心の空間づくり」のステップ

(出典：定禅寺通エリアまちづくりビジョン 2030)

道路空間再構成については、このようにこれまでも様々な意見がありましたが、車線削減にあたっては、自動車交通の安全性と円滑性の確保のほか、公共交通・物流車両等のための空間の確保や、沿道の土地利用との調整等が必要不可欠です。また、車線削減によって生み出された歩行者空間を利活用し、エリアの活性化につなげていくためには、地域の住民や企業も含めた気運の醸成も重要です。

例えば、片側2車線削減（完全片側1車線化）といった大幅な車線削減を行う場合、現状の自動車交通量では定禅寺通や周辺道路で混雑が生じることが見込まれる状況であり、来訪交通手段の公共交通等への転換等による定禅寺通エリアや都心部の自動車交通量の抑制が課題となります。

また、トランジットモール化（公共交通等のみ通行可能）やフルモール化／公園化（車両全面通行禁止）のように、一般車両の通行を禁止する場合は、完全片側1車線化よりも周辺道路における自動車交通流への影響がさらに大きいことに加え、沿道駐車場等への出入りや貨物車両の通行・停車ができなくなるため、自動車交通量の抑制のほか、沿道の土地利用の転換や貨物集配の仕組みづくり等も必要となります。

このように、車線削減を実施するには多くの課題がありますが、地域が目指すまちづくりを加速させるためにも、まずは早期に実現可能な道路空間再構成を進めます。

(2) 早期実現を目指す車線削減と歩行者空間拡大の概要

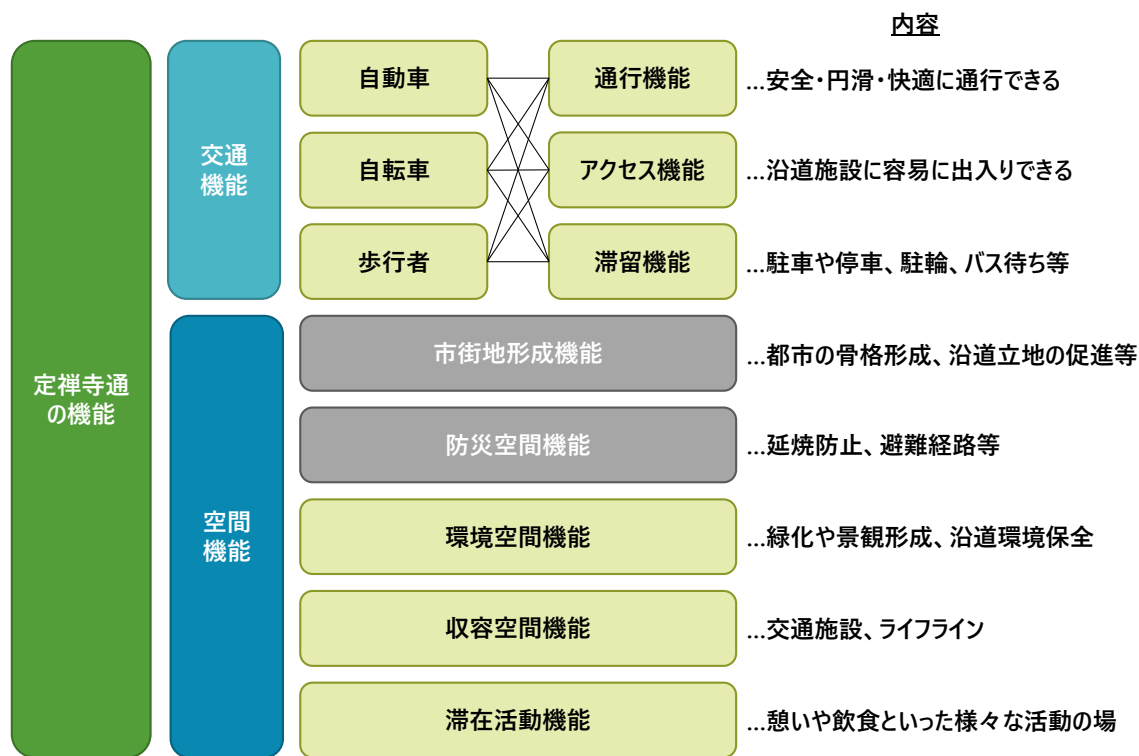
- 片側1車線削減を基本に、一部区間（西行き・立町エリア）で2車線削減します。
- 車線削減した空間を活用して歩行者空間を拡大します。
- バスベイや停車・荷捌きスペース等の必要な空間を確保するとともに、自転車通行空間を車道上に整備します。

早期に実現可能な道路空間再構成として、車線削減時の交通量推計結果や大規模社会実験時の交通量調査結果を踏まえ、自動車交通流に大きな影響が生じないことが見込まれる「片側1車線削減を基本に一部区間で2車線削減」することにより、歩行者空間を拡大するとともに、バスベイや停車・荷捌きスペース等の確保、自転車通行空間の整備を行います。

2.2. 定禅寺通の再整備の考え方

「通」や「道路」の機能については、一般的に、交通機能と空間機能に大別されています。交通機能としては、歩行者や自転車、自動車といった各種交通手段が安全、円滑、快適に通行できる通行機能と、沿道施設に容易に出入りできるというアクセス機能、駐車や停車などの滞留機能の3つの機能があるとされています。また、空間機能としては、市街地の形成や防災、環境形成、交通施設やライフラインの収容空間としての機能などがあるとされ、最近では令和2年5月の道路法改正で創設された「歩行者利便増進道路（通称“ほこみち”）」により、道路上での憩いや飲食といった様々な活動の場が創出できるようになり、空間機能の1つとして滞在活動機能が加えられています。これらの機能は、「通」が担うまちづくり上の機能と考えることができます。

以降、この「通」や「道路」の機能分類を用いて、定禅寺通が担う機能ごとに再整備の考え方を示します。なお、「市街地形成機能」及び「防災空間機能」については、現状で有する機能を再整備によって変えるものではなく、本方針ではそれ以外の各機能について考え方を示します。



※本方針では、 で示された各機能について、定禅寺通再整備における考え方を示します。

図 定禅寺通の機能分類

2.2.1. 交通機能の考え方

(1) 自動車

1) 通行機能

(車線構成)

- 片側1車線削減を基本とし、一部区間(西行き・立町エリア)で片側2車線削減を実施します。

《車線削減の考え方》

車線削減については、現在の自動車交通量に基づき車線削減した場合の交通量推計を行い、片側1車線削減を基本とした車線削減を実施しても周辺の道路や交差点における混雑等への大きな影響は生じないという分析結果が得られたことから、令和3年度に車線削減を伴う大規模社会実験を実施しました。大規模社会実験の交通量調査結果では、自動車交通量に大きな変化はなく、コロナ禍の影響による検証を踏まえても、社会実験の車線規制による自動車交通への大きな影響は生じなかったと言える分析結果が得られています。

当初、定禅寺通活性化検討会の議論を踏まえ、全線1車線化について検討を行いました。交通量推計の結果から、全線1車線化した場合、定禅寺通や周辺道路において混雑が生じることが懸念されました。一方、晩翠通から西側のエリアでは東側に比べ自動車交通量が少なく、立町エリア(図の片側2車線削減区間)を1車線化しても混雑の状況に変化はほとんど生じないという分析結果が得られました。また、立町エリアの沿道では歩道空間を活用した取り組みが継続的に実施されており、このような民間による取り組みを促進することがエリアの活性化につながることから、上記のような車線削減を行います。

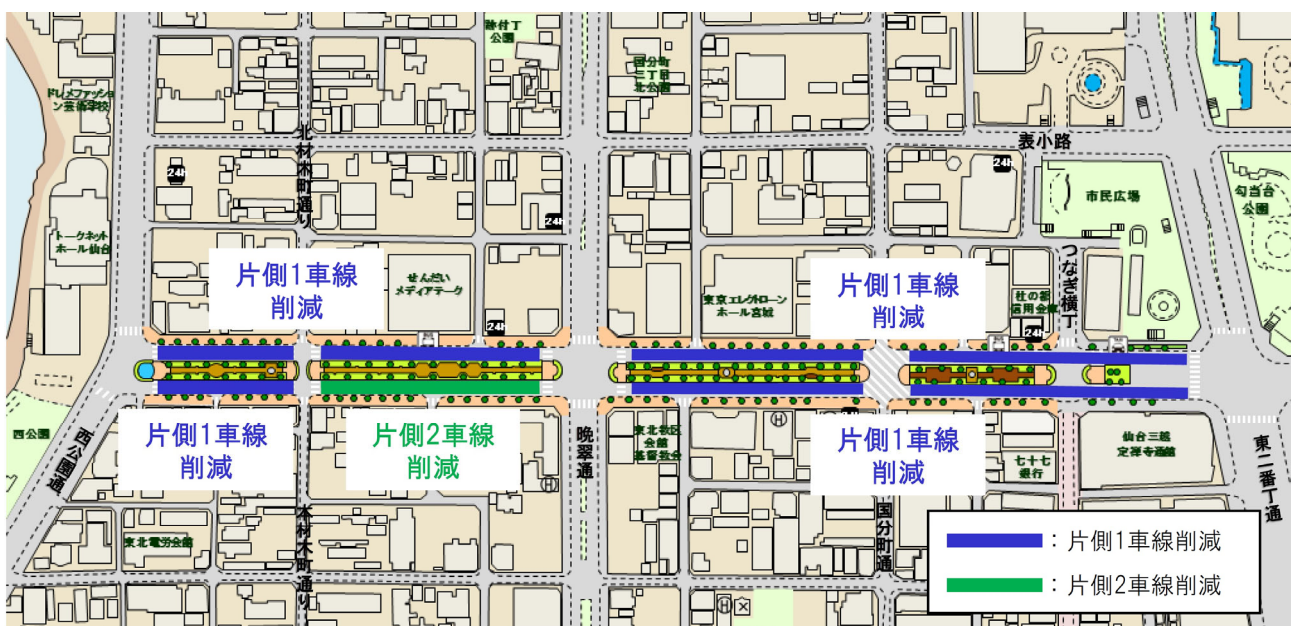


図 車線削減の概要

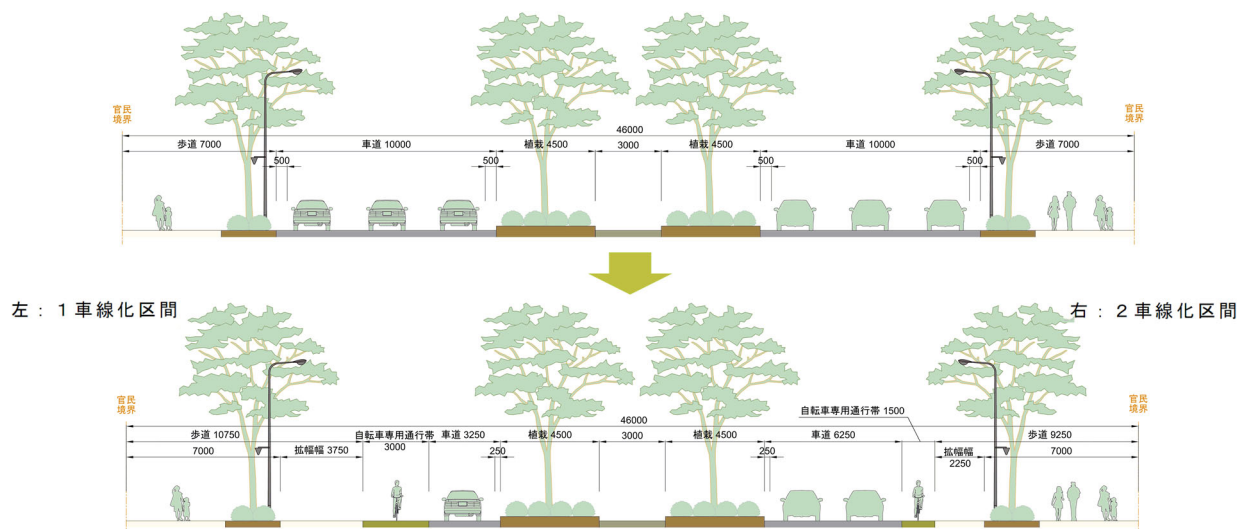


図 現況と再構成後の車線構成イメージ（上図：現況、下図：再構成）

2) アクセス機能

（乗入れ）

- 沿道駐車場等への出入りのため、現状で歩車道境界が乗入れ構造となっている箇所については、原則、現状の位置及び形状で設置します。

3) 滞留機能（バス・タクシー・停車・荷捌き）

（駐車・停車）

- 自転車専用通行帯を含む車線上に駐停車が行われないう、自転車専用通行帯の左側にバスベイやタクシー乗場、停車・荷捌きスペースを設置します。
- 深夜帯の客待ちタクシーの運用方式（タクシー「国分町 3way」方式）は、現行のルート・運用で継続します。
- 「停車・荷捌きスペース」は、停車（人の乗降など）のほか、沿道の経済活動に不可欠な貨物集配時の駐車にも利用可能（それ以外の「駐車」にあたる行為はこれまでと同様に禁止）なスペースとして設置します。設置にあたっては、トラック等も利用可能な規模として、長さ 12m のスペース（一般的な乗用車は 2 台駐車可能）を設けることを基本とし、可能な限り、各街区（信号交差点間）に 1 箇所設置することを基本とします。

《バスベイやタクシー乗場、停車・荷捌きスペースの設置箇所について》

道路交通法では、停車するときは道路の左側端に停めなければならないとされています。自転車専用通行帯も車道であるため、道路交通法に則れば自動車は自転車専用通行帯の上に停車しなければならないことになり、自転車通行の妨げとなってしまいます。そのため、自転車専用通行帯の左側に停車・荷捌きスペースを設けることにより、スムーズな停車等と自転車通行の両立を図りたいと考えています。

なお、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン（平成 28 年 7 月（国土交通省・警察庁））によると、「パーキング・メーター等が必要な区間の自転車専用通行帯は、自転車と自動車の双

方の安全性を向上させるため、駐車スペースの車道側に設置するものとする。」とされています。この形状での整備をした際の自転車通行の安全性については、後述の通りです（P17 参照）。

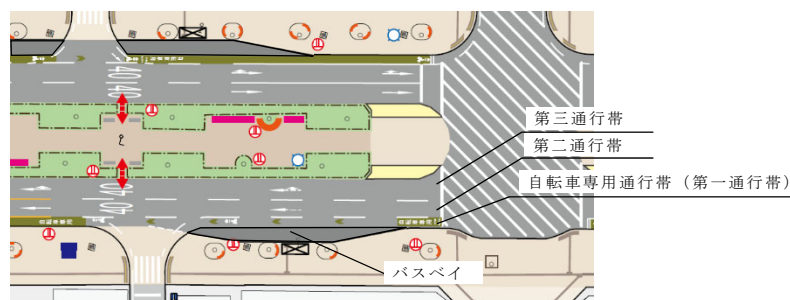


図 バスベイのイメージ

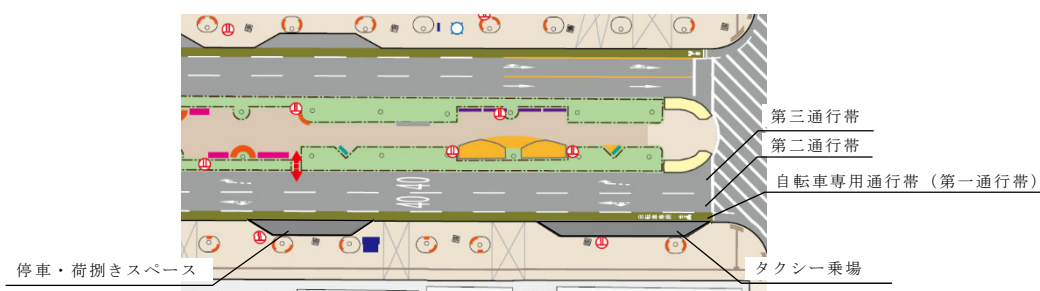


図 タクシー乗場・停車・荷捌きスペースのイメージ

(参考) 駐車及び停車に関するルール

駐車（道路交通法第2条第1項第18号）

車両等が客待ち、荷待ち、貨物の積卸し、故障その他の理由により継続的に停止すること（貨物の積卸しのための停止で五分を超えない時間内のもの及び人の乗降のための停止を除く。）、又は車両等が停止し、かつ、当該車両等の運転をする者（以下「運転者」という。）がその車両等を離れて直ちに運転することができない状態にあることをいう。

停車（道路交通法第2条第1項第19号）

車両等が停止することで駐車以外のものをいう。

停車又は駐車の方法（道路交通法第47条）

車両は、人の乗降又は貨物の積卸しのため停車するときは、できる限り道路の左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにしなければならない。

2 車両は、駐車するときは、道路の左側端に沿い、かつ、他の交通の妨害とならないようにしなければならない。

（以下略）



※22:30～翌3:00までタクシー乗場を定禅寺通と広瀬通に集約し、乗場に続くルートタクシーの待機レーンとして1車線使用しています。

図 タクシー「国分町 3Way」方式

(出典：(一社)宮城県タクシー協会仙台地区総支部資料(抜粋))

(2) 自転車

1) 通行機能

(自転車通行空間)

- 車線数を削減した空間に自転車専用通行帯(自転車レーン)を設け、車道上に自転車の通行空間を確保します。
- 「普通自転車歩道通行可」の規制を当面継続し、交通ルールの周知・マナー啓発を行いながら、自転車の車道走行を促していきます。

《自転車通行空間の整備形態について》

安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(平成28年7月(国土交通省・警察庁))及び仙台市自転車の安全な利活用推進計画(令和3年3月)に基づき、定禅寺通における自動車の交通量や速度を踏まえ、自転車専用通行帯を選定しました。

	A 自動車の速度が高い道路	B A,C以外の道路	C 自動車の速度が低く、 自動車交通量が少ない道路
自転車と自動車の分離	構造的な分離	視覚的な分離	混在
目安※	速度が50km/h超	A,C以外の道路	速度が40km/h以下、かつ 自動車交通量が4,000台以下
整備形態	自転車道	自転車専用通行帯	車道混在(自転車と自動車を 車道で混在)

※ 参考となる目安を示したものであるが、分離の必要性については、各地域において、交通状況等に応じて検討することができる。

図 交通状況を踏まえた整備形態の選定(完成形態)の考え方

(出典:安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(平成28年7月(国土交通省・警察庁))を加工)

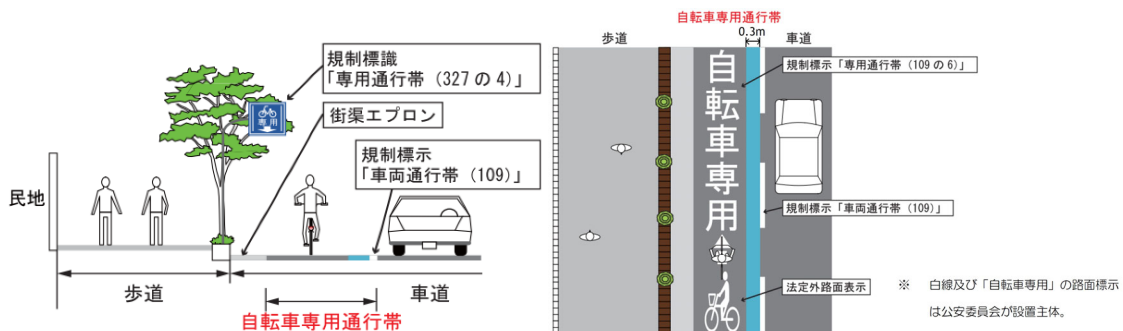


図 自転車専用通行帯の整備イメージ

(出典:自転車通行空間における法定外表示ガイドライン(仙台市))

《「普通自転車歩道通行可」の併用について》

交通規制を行う場合に必要な一般的基準を定めた「交通規制基準(警察庁)」では、自転車専用通行帯と普通自転車歩道通行可の規制の併用について、『交通実態、沿道状況、自転車利用者等の意見を踏まえ、必要と認められる場合に限って実施すること』とされています。

定禅寺通においては、令和3年度の大規模社会実験において、自転車と歩行者、又は自転車と自動車の錯綜状況を調査するとともに、歩行者や自転車利用者等に対し、自転車の車道走行に関するヒアリングを行いました。その結果、車道(自転車専用通行帯、矢羽根)における自転車と

自動車の錯綜（危険な状況）はほとんど見られなかった一方で、ヒアリング結果では、車道を走る不安や路上駐車があり走りにくかったなど、否定的な意見も挙げられました。このことから、当面の間、普通自転車歩道通行可の規制を継続し、自転車・自動車の運転手における自転車の通行及び自動車の駐停車に関するルールの認識やマナー意識の向上を図るとともに、徐々に自転車の車道走行を促すことが必要であると考えます。

（参考）自転車の車道走行の安全性について（令和3年度大規模社会実験における調査結果）

定禅寺通において、普通自転車歩道通行可の交通規制を解除し、自転車専用通行帯等を設置した際の、歩道及び車道における錯綜状況と交通ルール・マナーの違反状況について確認するとともに、歩行者及び自転車利用者等が利便性・安全性についてどのように感じたかについて、調査を実施しました。

【調査結果】

- 車道走行の自転車に、他の車両との錯綜はほとんど見られず、社会実験中、停車・荷捌きスペースを設けた状態であっても錯綜率も低下した。
- 錯綜が起きた際のルール・マナー違反は全て、自転車利用者によるものだった。
- 車道走行することについて安全・快適と感じた歩行者は約5割、自転車利用者は約2割。
- 歩行者からは安全性が高まった等の肯定的な意見が多いが、自転車利用者からは路上駐車が多くて危険等の否定的な意見も挙げられた。

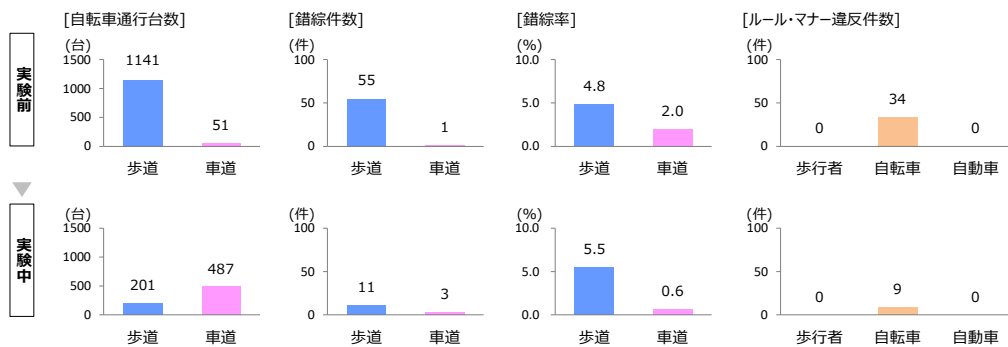


図 自転車の車道走行における錯綜等（ビデオ調査結果）

問 社会実験期間中 安全・快適になったか

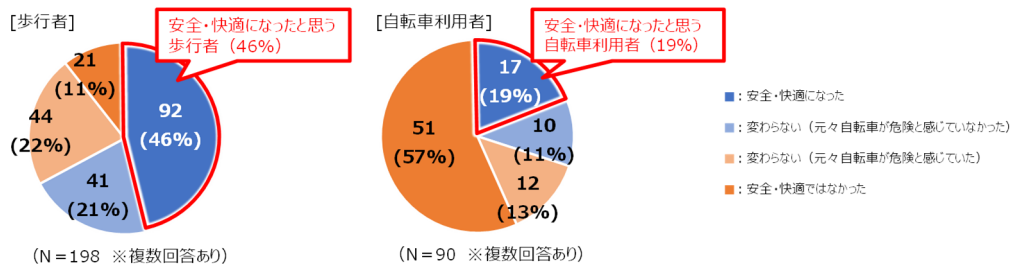


図 歩行者及び自転車利用者へのヒアリング結果

2) アクセス機能

(乗入れ)

- 自転車専用通行帯の整備により、自転車は車道通行となることから、自動車と同様に定められた進行方向に通行することになるため、沿道施設の駐輪場等へのアクセスにあたっては進行方向左側に乗入れることとなります。

(参考) 自転車の通行に関するルール

道路交通法上、自転車は軽車両と位置付けられており、車道と歩道の区別があるところは車道通行が原則であり、道路の左側に寄って通行しなければならないと定められています。

また、今回整備する自転車専用通行帯は、道路交通法に基づき、普通自転車が通行しなければならない専用の通行帯として、第一通行帯（車道）に指定されるものです。従って、他の車両（自動車など）と同様の進行方向に通行することとなります。なお、自転車専用通行帯と普通自転車歩道通行可の規制における歩道の通行に関するルールは下記のとおりです。

(車両（軽車両を含む）の通行の原則①（車道走行））（道路交通法第17条第1項）

- ・車両は、歩道又は路側帯（以下この条において「歩道等」という。）と車道の区別のある道路においては、車道を通行しなければならない。（以下略）

(車両（軽車両を含む）の通行の原則②（左側通行））（道路交通法第18条第1項）

- ・車両（トロリーバスを除く。）は、車両通行帯の設けられた道路を通行する場合を除き、自動車及び原動機付自転車にあつては道路の左側に寄つて、軽車両にあつては道路の左側端に寄つて、それぞれ当該道路を通行しなければならない。（以下略）

(自転車専用通行帯を通行する場合）（道路交通法第20条第2項）

- ・車両通行帯の設けられた道路において道路標識等により通行の区分が指定されている場合には、指定された車両通行帯を通行しなければならない。

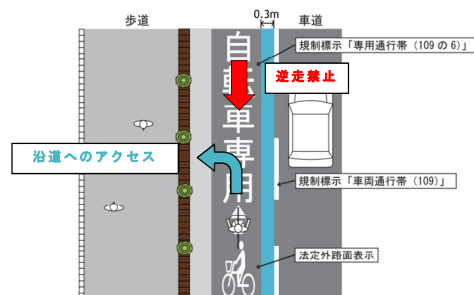


図 自転車の通行方向のイメージ

(出典：自転車通行空間における法定外表示ガイドライン（仙台市）（一部加工）)

(「普通自転車歩道通行可」規制の歩道を通行する場合）（道路交通法第63条の4第2項）

- ・歩道を通行する際は、歩道の中央から車道寄りの部分を徐行により通行しなければならない。
- ・歩行者の通行を妨げることとなるときは一時停止しなければならない。

3) 滞留機能

(駐車)

- 道路空間上には自転車の駐輪施設は設けず、市営駐輪場または沿道施設の駐輪場を利用することとします。ただし、定禅寺通における自転車の駐輪施設の検討が必要となった場合には、設置の必要性や妥当性について関係者と協議することとします。

(参考) 市営駐輪場の配置及び仙台市自転車等放置防止条例について



市営駐輪場の配置及び放置自転車等放置禁止・規制区域

(出典：国土地理院地図を加工)

(放置自転車に関する取り組み)

本市では、路上への無秩序な駐輪による歩行妨害の抑止や良好な景観確保の観点から、条例に基づき、放置自転車の撤去を実施しています。

自転車放置禁止区域：公共の場所に放置された自転車・バイク等を即時撤去

自転車等放置規制区域：公共の場所に放置された自転車・バイク等を移動するよう利用者に命じ、命令に従って移動されない場合は撤去

放置：公共の場所において、自転車等の利用者又は所有者が自転車等から離れてこれを直ちに移動することができない状態

(3) 歩行者

1) 通行機能

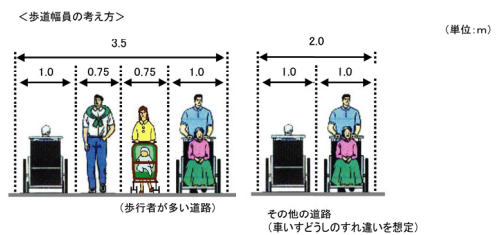
(歩道の通行空間)

- 車線数削減により、歩道を拡幅します。その際、歩行者の安全かつ円滑な通行を確保するため、通行空間として幅員 3.5m 以上確保し、視覚障害者誘導用ブロックを設置します。

(参考) 歩道幅員について

「歩道」の幅員（道路構造令第 11 条第 3 項）

歩行者の交通量が多い道路にあつては、3.5 m 以上、その他の道路にあつては 2 m 以上

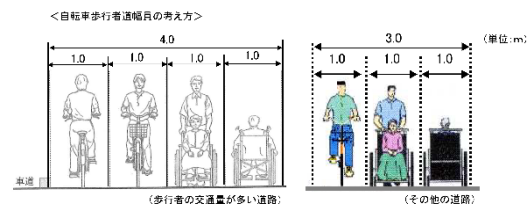


(出典：道路構造令の各規定の解説（国土交通省）)

『普通自転車歩道通行可』を継続する場合

「自転車歩行者道」の幅員（道路構造令第 10 条の 2 第 2 項）

歩行者の交通量が多い道路にあつては、4 m 以上、その他の道路にあつては 3 m 以上



(出典：道路構造令の各規定の解説（国土交通省）)

「歩行者利便増進道路」である定禅寺通において、「利便増進誘導区域」を指定する際は、その時点の歩行者通行量等に応じて確保すべき通行幅員の整理を行います。

(歩車道境界)

- 1 車線削減区間 (2 車線化区間) については、セミフラット構造 (車道と歩道の段差は 5cm) を基本とします。
- バス停部はマウントアップ構造 (車道と歩道の段差は 15cm 以内) とします。
- 2 車線削減区間 (1 車線化区間) については、イベント時には 1 車線削減区間と同様の幅員で活用できる等、フレキシブルな活用を可能とするため、フラット構造 (車道と歩道の段差は 0 cm) とすることとします。歩車道境界は地先境界ブロック等により明示し、車両進入防止対策として防護柵等を設置することとします。

《歩車道境界の構造について》

定禅寺通再整備では、道路構造の一般的な技術基準等が記載されている「道路構造令の解説と運用」に基づき、セミフラット構造を採用します。セミフラット構造は、車両乗入れ部で波

打ち歩道とならないこと、降雨時に車道側から歩道側に雨水が流入しにくいなどのほか、バリアフリーの観点からも基本構造とされています。

また、マウントアップ構造は、バス停留所付近の歩道等におけるバス利用者の円滑な乗降などに適した構造とされています。

フラット構造については、車両乗入れ部での歩道等の段差や勾配の問題が生じないものの、視覚障害者は歩車道境界を確認しにくい、降雨時には、車道路面上の排水が歩道等に流入するおそれがあるとされています。

そのため、2車線削減区間については、仙台国際ハーフマラソン等広い幅員を使用するイベントへの対応として部分的にフラット構造としますが、視覚障害者等の安全な通行を確保するため、車道から十分離れた適切な位置に視覚障害者誘導用ブロックを設置し、降雨を適切に処理できるよう舗装や排水構造物の設計に配慮します。

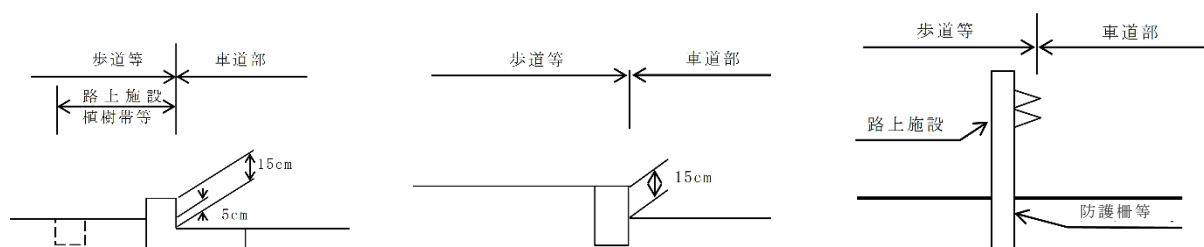


図 歩車道境界の一般的な構造（左：セミフラット、中央：マウントアップ、右：フラット）
（出典：仙台市歩道等設計基準）



図 防護柵等の設置イメージ（ポラード）

(横断歩道)

- 東一番丁通との交差点において、定禅寺通を挟んだ南北の往来と中央緑道間のアクセスを円滑にするため、交差点のスクランブル化（斜め横断可の横断歩道の設置）に向けて、信号機の設置時期等を交通管理者と調整したうえで交差点形状を変更します。
- 木町通本材木町通線（北材木町通り・本材木町通り）との交差点において、中央緑道を結ぶ横断歩道の設置に向けて、信号機の設置時期等を交通管理者と調整したうえで交差点形状を変更します。

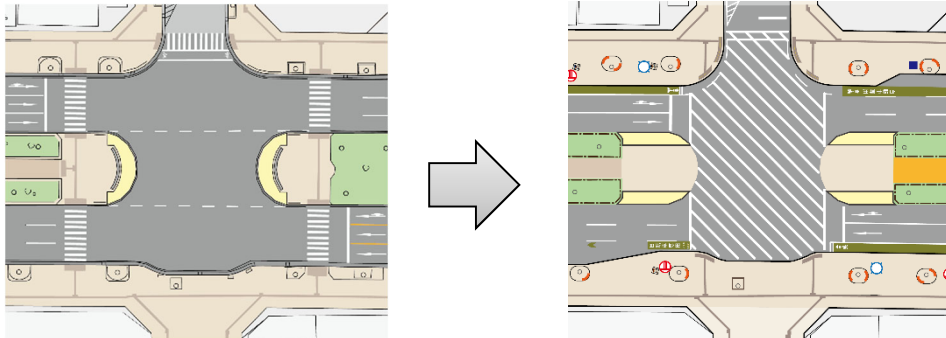


図 交差点のスクランブル化のイメージ（東一番丁通との交差点）

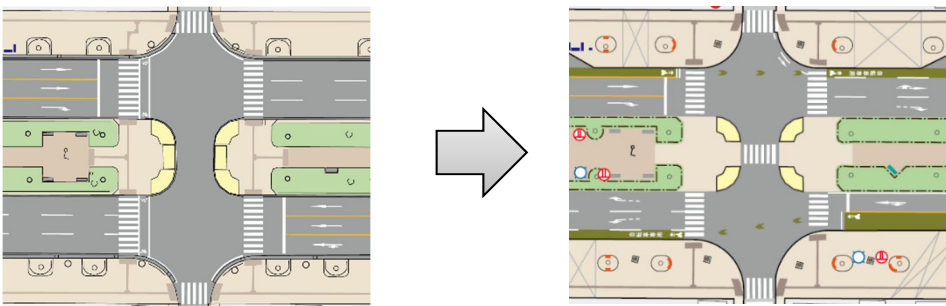


図 中央緑道を結ぶ横断歩道のイメージ（木町通本材木町線との交差点）

《交差点のスクランブル化について》

本市では、本庁舎の建替えを進めており、市民の皆様がより活用しやすい空間を目指して、新本庁舎敷地内広場と勾当台公園市民広場等（表小路やつなぎ横丁を含む）との一体的利活用に向けた検討を行っています。

現状では、市民広場から生まれる賑わいが定禅寺通や一番町アーケードへ波及しにくいという問題が指摘されており、本庁舎低層部と市民広場等の再整備後、そこで生まれる賑わいを、定禅寺通や一番町アーケードへ連続させること、それにより、本庁舎低層部と表小路、市民広場、つなぎ横丁、定禅寺通、一番町アーケードが一体的な賑わい空間となることが定禅寺通の活性化には重要であると考えます。

また、横断歩道がない箇所を斜め横断する歩行者が多く見られることから、定禅寺通を再整備するこの機会に交差点のスクランブル化（斜め横断可の横断歩道の設置）を行い、歩行者等の安全性の向上を図る必要があります。

2) アクセス機能

- 定禅寺通の通行止め（歩行者天国等）を伴うイベント等における活用を想定し、中央緑道の一般部（中間地点付近）に歩行者の出入口を設けることとします。なお、平常時は、柵等により出入りを防止して安全対策を行います。

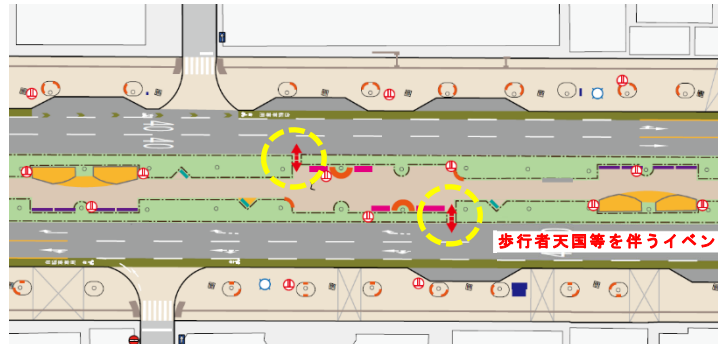


図 中央緑道への出入口の新設イメージ

3) 滞留機能

- 歩道の拡幅に伴い、横断歩道付近等における歩行者の滞留スペースが広がります。

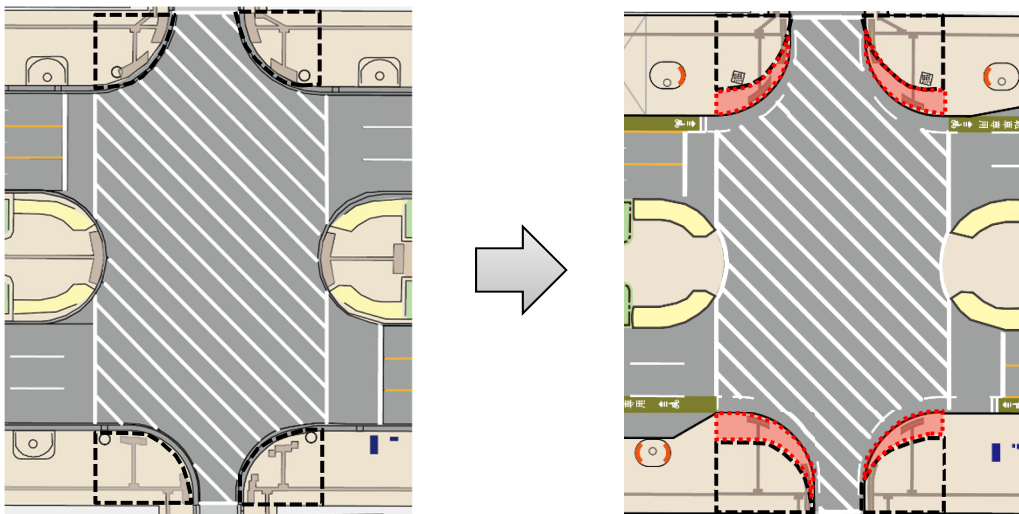


図 歩行者の滞留スペースの拡張のイメージ

2.2.2. 空間機能の考え方

(1) 環境空間機能

1) 街路樹（ケヤキ）

- ケヤキは現位置に保存することとし、ケヤキの根の分布状況等の調査（試掘調査）を行ったうえで、ケヤキの生育環境に配慮した整備を行います。
- ケヤキ並木の美観の確保や、歩行者や車両の通行の安全確保に必要な剪定等の維持管理に配慮した整備を行います。
- ケヤキの根上りを予防し、かつ、健全な生育環境を確保するため、歩道拡幅部の土壌改良や排水機能（浸透柵等）の整備を行います。
- ケヤキへの踏圧防止を図るため、歩道部の防護柵（ツリースーカル）をリニューアルするとともに、中央緑道の植栽帯には立入防止の対策を行います。



図 防護柵のイメージ図

2) 低木・地被類の植栽

- 歩道のケヤキの植樹柵内への低木や地被類の植栽は、ケヤキ根際の視認性を悪化させ、問題の発生を見落とす原因ともなるため、行わないこととします。
- 中央緑道の植栽帯には低木や地被類の植栽を行うこととし、景観の向上を念頭に樹種等を選定します。ただし、歩道と同様、ケヤキの根際への植栽は避けるとともに、歩行者やイベント参加者などが踏み込まないよう対策を行います。

3) 花壇

- 横断歩道のスクランブル化に合わせて、既存の花壇を移設し、季節の彩りを確保します。

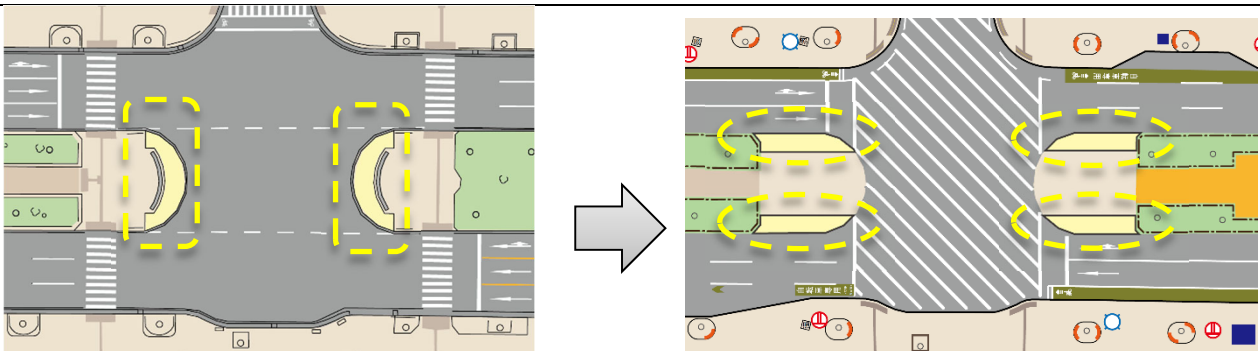


図 花壇の移設（移設前→移設後）

4) 舗装デザイン

- 歩道の舗装は、シンボルロードとしての景観を維持しつつ、ケヤキや周辺の建造物に馴染む色彩とするため、暖かみのあるベージュ系とし、素材は天然石など上質感のある材料を使用します。また、視覚障害者誘導用ブロックは、景観への配慮から黄色以外を採用します。
- 舗装のデザインは、通行空間や滞在・利活用空間を視覚的に把握できるように配慮します。
- 細街路との交差点（巻き込み部）における舗装は、歩道部との一体性を高め、歩行者空間の連続性を確保するため、歩道部の舗装と統一性のあるデザインを採用します。
- 中央緑道では、歩行や滞在の快適性を向上するため、路面の舗装やウッドデッキを整備します。舗装等の材質や構造は、管理車両の通行や透水性に配慮したものを採用します。

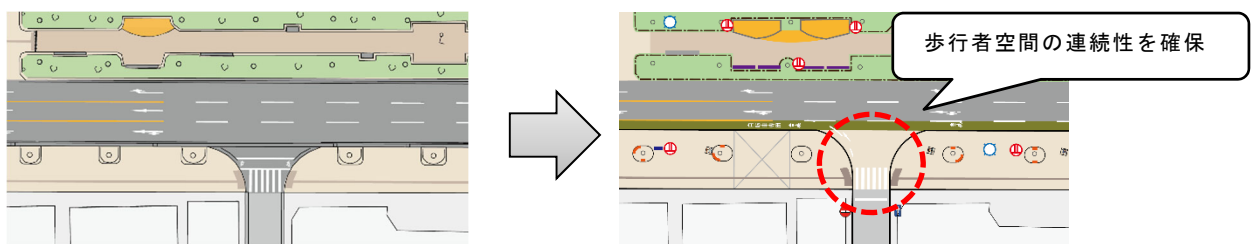


図 細街路との交差点（巻き込み部）のイメージ

5) 照明

- 道路照明灯及び街路灯は、既存の設備を活用することとし、耐久性を高めるため再塗装を行います。また、夜間における沿道の視認性を高め、通行者の安心感を向上させるとともに、歩きたくなるような変化・リズムのある空間とするため、歩道のツリーサークルベンチ等に照明を設置します。
- 中央緑道の照明施設は、既存のフットライト・アプローチライトは活用しつつ、夜間においてもシンボルであるケヤキ並木を感じられるよう、緑道の出入り口等にケヤキを照らす照明等を、既存イベントとの連携等も踏まえて整備します。また、ひと気が感じられる夜間景観とするため、ベンチ周りなどの滞在空間等にも部分的に照明を設置します。
- 照明の整備にあたっては、既存設備のLED化等による省エネルギー化を図ります。

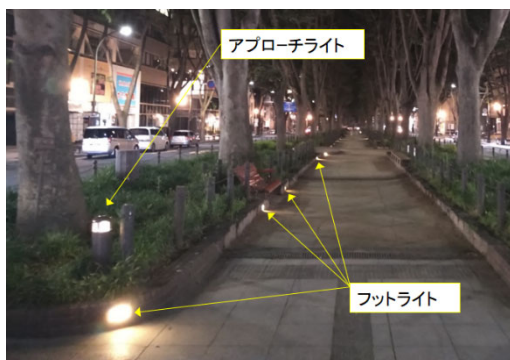


図 中央緑道のフットライト・アプローチライト

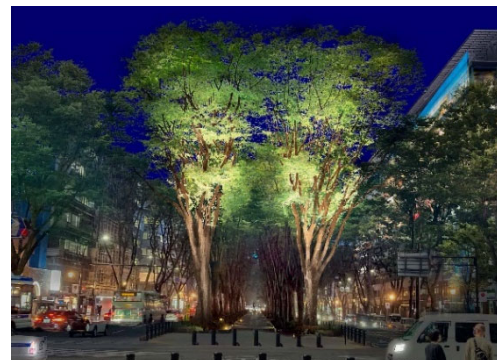


図 ケヤキを照らす照明のイメージ

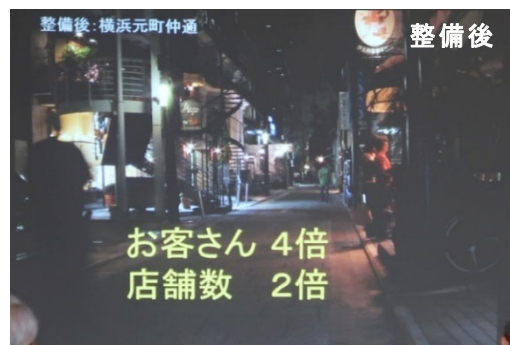
コラム② 人を惹きつける街灯りについて（検討会の取り組み）

人を惹きつける街灯りのポイントを学ぶ、魅力的な夜の景観ワーキンググループを、令和元年7月24日(水)に開催しました。29名の会員にご参加いただき、講師・角館まさひで先生*によるレクチャーと質疑、照明デモンストレーションにより、定禅寺通りの照明の在り方について考えました。

【レクチャー概要】

超高層の複合型商業施設(大阪・あべのハルカス)のライティングや、商店街(横浜・元町など)・広場(大阪・天王寺公園など)の照明計画、道路(池袋・グリーン大通など)の照明実験、観光地(石川・和倉温泉など)・被災地(気仙沼・内湾地区など)での照明演出など、角館氏が手がける照明デザイン・コンサルタントの事例を基にした、「ひと気を感じる景観」「記憶に残る景観」をつくる手法と、その効果についての講義により、「人を惹きつける（賑わいを呼ぶ）夜の景観」とするためには、「ひと気を感じることで安心感を得られることが大切」、「発見のある街は、人のアクティビティが増幅し、散策する人が増える傾向にある」ということを学びました。横浜市元町の事例では、沿道各店舗によるボイド照明と共通仕様での突き出し看板の設置により、沿道店舗の視認性を向上させたことで、様々な発見が増幅し、お客さんが4倍に、店舗数が2倍になったそうです。

〈元町仲通りのモデル実験と整備後〉



【照明デモンストレーション概要】

- ・定禅寺リビングストリートの社会実験と連動させ、民地の電源を借りて公共空間を演出。
- ・ひと気が感じられるようテーブルセットやツリーサークル周りを灯し、座った人が通りの風景となり印象に残る空間となった。
- ・直線的な歩道から空間の変化を造る事によって視線の変化が起こり、ひとが散策したくなるような歩道となった。



*ぼんぼり光環境計画株式会社代表、照明家、東京都市大学客員教授

(2) 収容空間機能

1) バス停上屋

- 良好な景観形成を図るため、再整備に合わせて既存のバス停上屋（「定禅寺通市役所前」バス停）をリニューアルします。上屋のデザインは、安全性や周辺のまちなみに配慮し、広告付き上屋とせず、シンプルな形状かつ周辺と調和する色彩とします。なお、バス停へのエリアマネジメント広告の掲示については、エリアマネジメント活動の自立的継続のための有効な手段の一つであると考えますが、その実施にあたっては、景観まちづくり協議会（定禅寺通街づくり協議会）との協議・調整等、地域での合意形成が行われ、かつ必要な各種許認可が得られたものである必要があります。

《定禅寺通における広告物の取扱いについて》

仙台市では、定禅寺通における広告物の設置については、地区計画や景観地区の指定によるまちづくりの方向に合わせ、表示できる広告物等の内容や形態、種類、色彩等について独自の制限を行うとともに、定禅寺通地区の街並みと調和するよう指導及び助言を行い、良好な景観形成を目指しています。定禅寺通は、仙台市屋外広告物条例に基づく広告物モデル地区に指定されており、定禅寺通で屋外広告物の表示を行おうとする場合は、広告物整備計画に定める目標及び指針、広告物美観維持基準（掲出可能な広告物、総量の制限等）に照らして、許可又は届出が必要になります。

なお、現状の広告物に関するルールでは、定禅寺通のバス停上屋には広告物を設置することはできませんが、エリアの活性化の観点から、エリアマネジメント広告による収益を、地域課題の解決や多様なプレーヤーによる空間利活用の取り組みへの中間支援等のまちづくりに還元するようなエリアマネジメント活動は必要であり促進すべきものであると考えます。

※定禅寺通広告物モデル地区における広告物美観維持基準（抜粋）

（掲出可能な広告物）

市道定禅寺通線に面して掲出できる広告物等は次のものに限る。ただし、街路灯に掲出するフラッグについては、街の賑わいの創出や各種イベントを支援するためのもので、杜の都の風土を育む景観条例（平成7年仙台市条例第5号）に規定する景観まちづくり協議会として認定された定禅寺通街づくり協議会が認め、市長の許可を受けたものはこの限りでない。

- ① 自己の氏名、名称、店名若しくは商標又は自己の事業若しくは営業の内容を示すため、自己の住所、事業所、営業所、又は作業所に表示し、又は設置する広告物等
- ② 前記に掲げるもののほか、自己の管理する土地または物件に管理上の必要に基づき表示し、又は設置する広告物等

2) ライフライン

- 定禅寺通は、無電柱化路線となっており、電力供給施設の地上機器が歩道上に設置されています。現状、ケヤキの植樹樹の間の空間に設置されており、再整備後も通行の支障とならないため、地上機器の移設は行わないこととします。



図 地上機器の設置状況

(3) 滞在活動機能

1) 歩道内の滞在・利活用空間の配置

- 必要な通行空間を確保したうえで、歩道内に滞在や利活用可能な空間（以下、「滞在・利活用空間」という。）を配置します。
- 滞在空間・利活用空間の配置にあたっては、沿道の利活用のニーズ等を反映した歩道内の空間配置を行います。空間の配置については、建物側に必要な通行空間（幅員 3.5m 以上）を確保し、車道側を滞在・利活用空間とする配置（パターンA）を基本とします。沿道に利活用のニーズがあり、かつ、前後の空間配置を踏まえて連続的な通行空間が確保できる場合は、建物側にも滞在・利活用空間を配置するパターン（パターンBやパターンC）を採用します。

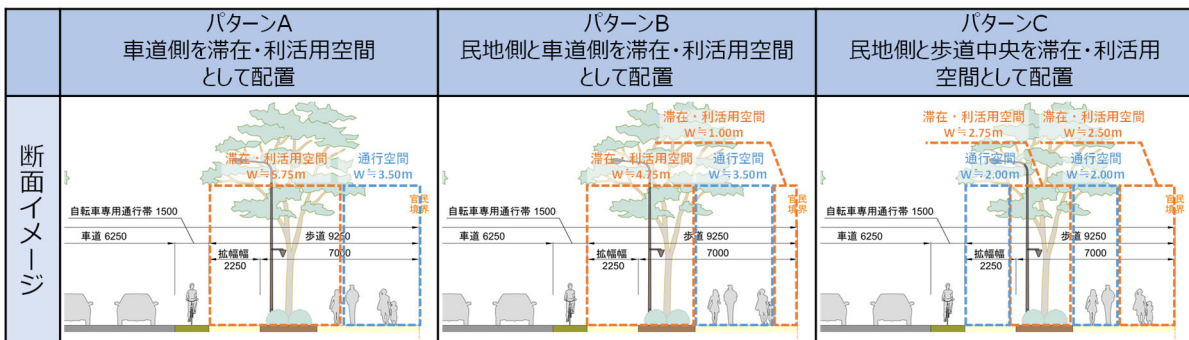


図 滞在・利活用空間の配置パターン

《パターンAの配置について》

沿道店舗等による利活用を前提としたパターンBやCに対して、パターンAは沿道店舗等に限定しない様々な主体による利活用が推進されやすい配置と考えます。まずは、パターンAの配置を基本とすることで、多様な主体による賑わいづくりを促進し、道路空間利活用についての気運が更に醸成し、沿道を中心とした利活用意向が見えてきたタイミングでパターンBやCへの移行を検討することとします。

コラム③ 道路空間等の利活用について（検討会の取り組み）（1/2）

【定禅寺通における道路空間利活用（各年度抜粋）】

定禅寺通活性化検討会では、これまで、民間主体による様々な取り組みを実践してきました。

令和元年度（2019年度）～

■ LIVING STREET PROJECT：立町エリアの歩道の一部

目的：地域住民等による日常的なコミュニケーションの場として利用されることで、地元コミュニティの強化、若者の出店希望などの愛着を育む。

内容：歩道に誰でも自由に利用できるテーブルと椅子を設置。不定期にマルシェを開催。



■ 定禅寺ストリートアライアンス：国分町三丁目エリアの歩道の一部

目的：将来的に、歩道の利活用により収益を確保し、それをまちづくりに還元していく仕組みづくりを行う。

内容：沿道不動産オーナーやテナントなどへの意欲醸成や利活用による収益性を確認するため、パークレットの設置や出店イベントを実施。



※「パークレット」とは、柵や机・椅子、プランターなどで構成され、車道の一部等を活用して生み出す滞留・休憩スペース

令和2年度（2020年度）～

■ イナトラほろ酔い縁日：虎屋横丁、稲荷小路

目的：“安心・安全な食のまち” 虎屋横丁・稲荷小路を発信するため、自転車および歩行者用道路となる規制「酔っぱらい天国」を活かした軒先テラスの常設化による賑わいづくりと定禅寺通への波及効果を目指す。

内容：虎屋横丁・稲荷小路エリアに、エリアの飲食店利用客が自由に利用できるテーブル・椅子を設置。

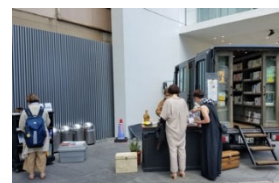
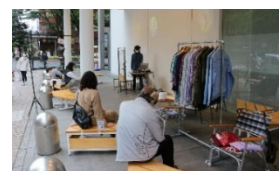


令和3年度（2021年度）

■ Green Activity：沿道建物のオープンスペース

目的：単発イベントによる集客に頼らない賑わいづくりを目指し、空間利活用の試行を通じて、沿道パブリックスペースの活用の可能性を探る。

内容：ミュージックやアート、ファッションなどの要素を組み合わせた複合型カルチャースペースの定期開設。



コラム③ 道路空間等の利活用について（検討会の取り組み）（2/2）

令和3年度（2021年度）

■アートな街・定禅寺通：中央緑道（西側）

目的：アーティストの活躍の場を提供し、市民が気軽にアートに触れ・楽しむ機会をつくることで、「アートの街・定禅寺通」を発信・浸透させ、定禅寺通エリアの魅力向上につなげる。

内容：中央緑道でのアート出店イベントを開催。



【定禅寺通エリアまちづくり基本構想に示された空間イメージ】

上記のような取り組みを経て、基本構想には「2030年までには実現したい空間イメージ」が示されており、利活用空間において様々な利活用がなされ、人々が定禅寺通で豊かに過ごしている様子が描かれています。



図 まちづくり基本構想に示されたイメージ（西エリア）

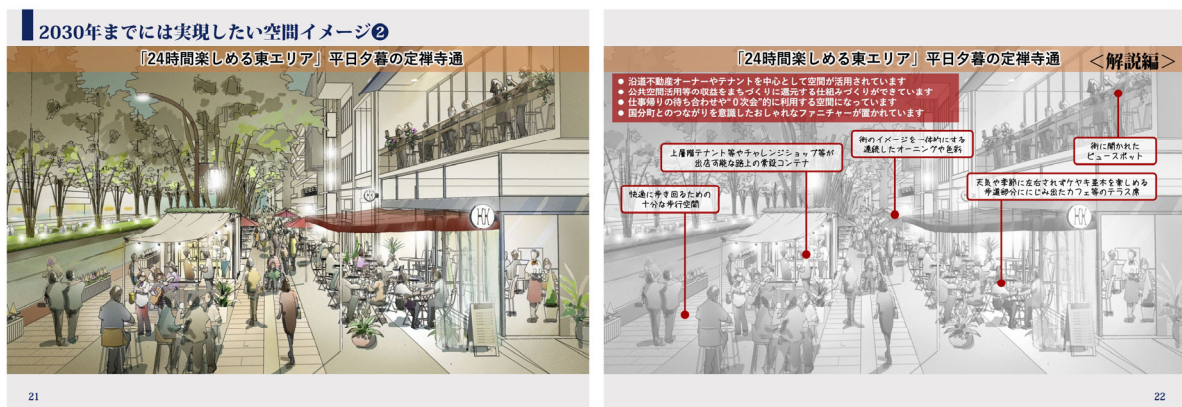


図 まちづくり基本構想に示されたイメージ（東エリア）

2) 中央緑道の滞在・利活用空間の配置

- 中央緑道における、多様な利活用や快適な滞在のためのスペースを確保するため、植栽スペースの見直しを行い、滞在空間の拡張を行います。ただし、空間の見直しにあたっては、ケヤキの根の調査を行ったうえで、ケヤキの生育環境への影響を考慮して整備方法や整備範囲を決定するものとします。

3) 滞在用設備（ベンチ等）

- 歩道における滞在しやすさや歩行者の利便性等の向上を図るため、ツリーサークルはベンチを取付けできる構造を採用し、利活用空間や交差点、バス停付近など、歩行者等の滞留状況を踏まえてベンチを配置します。なお、その維持管理については、沿道の協力を得る等、官民連携での管理を前提とした仕組みが必要だと考えています。
- 中央緑道における滞在しやすさ等の向上を図るため、各スポットの特徴等を踏まえて、ベンチの形状や配置の見直しを行います。
- ベンチの配置にあたっては、利用者からの景色や外部の視線、利用者の距離間、目の高さ、向かい合った位置などに配慮し、利用者が憩い、落ち着ける空間となるように配置します。

《ツリーサークルベンチの維持管理について》

現状の定禅寺通におけるツリーサークルベンチについて、この空間を居心地の良い空間とするためには、ベンチや周辺環境の美化など、きめ細かな日常的な維持管理が課題となります。ベンチは地域の要望を受けた配置としていますが、沿道の協力の下維持管理を行いつつ、沿道利活用のニーズに合わせてベンチの配置を変更するなどの更新が可能な構造とするため、ベンチの取付け、取外しができる構造を採用します。



図 ツリーサークルベンチ（イメージ）

4) 利活用設備（イベント用電源・給排水設備等）

- 道路空間や中央緑道の利活用しやすさを向上するため、イベント用電源や給排水設備の設置（既存施設の見直しを含む）を行います。配置にあたっては、利活用可能な空間を考慮した上で計画するものとします。
- 電源設備の配置については、民間によるイベントや夜間照明の演出にも活用できるよう配慮することとします。

《イベント用電源や給排水設備の配置について》

イベント団体等へのヒアリングを踏まえ、利活用可能な空間を考慮した上でイベント用電源は20m程度に1箇所（10mのドラムで使用できる範囲）配置するとともに、給排水設備は各緑道や信号交差点間に1箇所程度（一定の区間で水が汲めるよう配慮）設置することを想定しています。

給水設備（例）



排水設備（例）



電源設備（例）



給排水設備の設置イメージ



図 給排水設備・電源設備のイメージ

参考資料

1. 定禅寺通エリア活性化の取り組みの経緯

1.1 本市のこれまでの取り組み

本市では、近年、都心部の人の流れと賑わいが仙台駅周辺へ集中する傾向にあること等を背景として、都心の重要な拠点の1つである定禅寺通エリアの魅力を高めることで都心全体の回遊性向上と活性化を図るため、平成29年度より定禅寺通エリアの活性化に向けた取り組みを開始しました。

平成30年10月には、地域の方々を中心とした「定禅寺通活性化検討会」（以下、「検討会」という。）が設立され、仙台商工会議所と共に本市（定禅寺通活性化室）が事務局を担い、検討会における議論や取り組みの支援を行いました。令和元年及び令和3年には、道路空間の利活用による賑わいや憩いの場づくりの検討を行うため、車線規制を伴う社会実験を本市と検討会の共催で実施しました。

また、勾当台・定禅寺通エリアにおいては、本庁舎建替えや勾当台公園の再整備等の検討も進む中、エリアでの個々の取り組みが結び付いた一体的な「面」としての魅力向上を図るため、有識者による「勾当台エリアビジョン策定検討懇話会」を設置して検討を行い、「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」を令和3年5月に策定しました。

令和4年度には、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度を活用して、定禅寺通および稲荷小路の一部をほこみちに指定し、民間主体による道路空間の利活用を開始しています。

（主な取り組み）

- 平成29年4月 定禅寺通活性化室（係相当※）の設置
※平成30年度からは課相当
- 令和元年10月 道路空間利活用社会実験「定禅寺通ストリートパーク'19」実施
- 令和3年5月 「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」を策定
- 令和3年8～9月 大規模社会実験「JOZENJI STREET STREAM」実施
（検討会と共催）
- 令和4年7月 歩行者利便増進道路（ほこみち）に指定

「勾当台・定禅寺通エリアビジョン」では、公・民が共有する「まちづくりの理念」と、本市としての「施策や取り組みの方向性」が示されています。

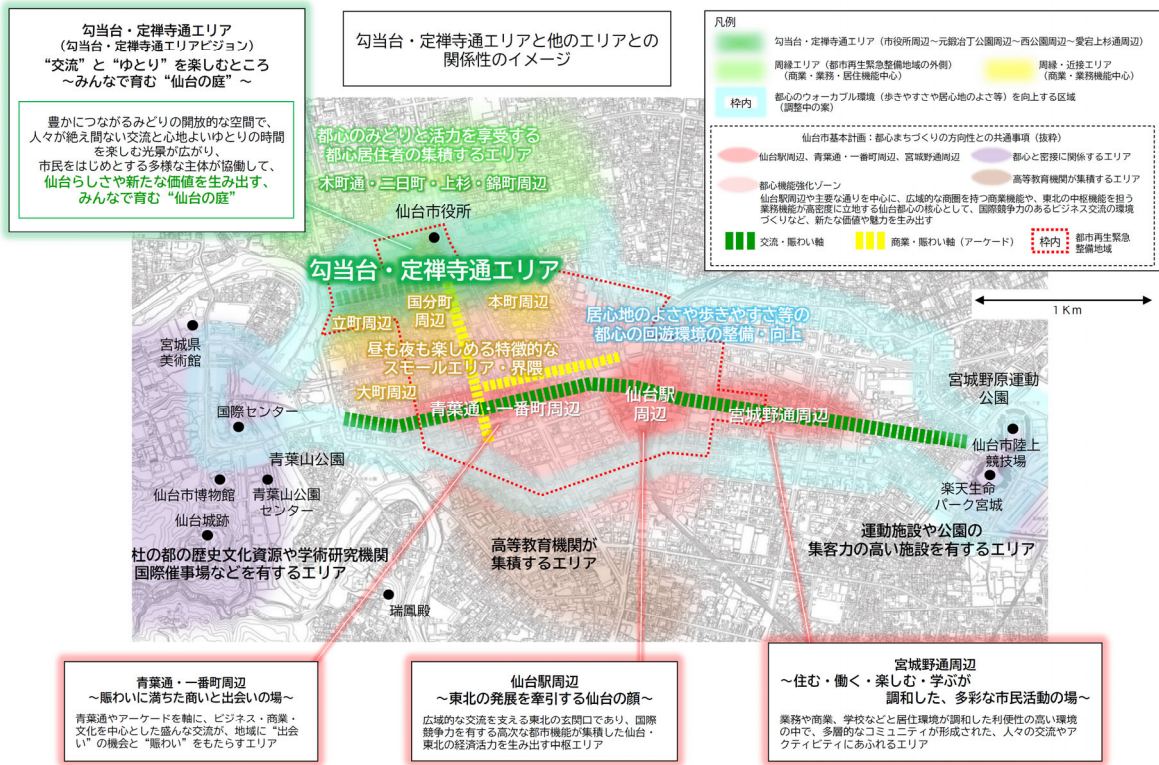


図 勾当台・定禅寺通エリアと他のエリアとの関係性のイメージ

(出典：勾当台・定禅寺通エリアビジョン (仙台市))

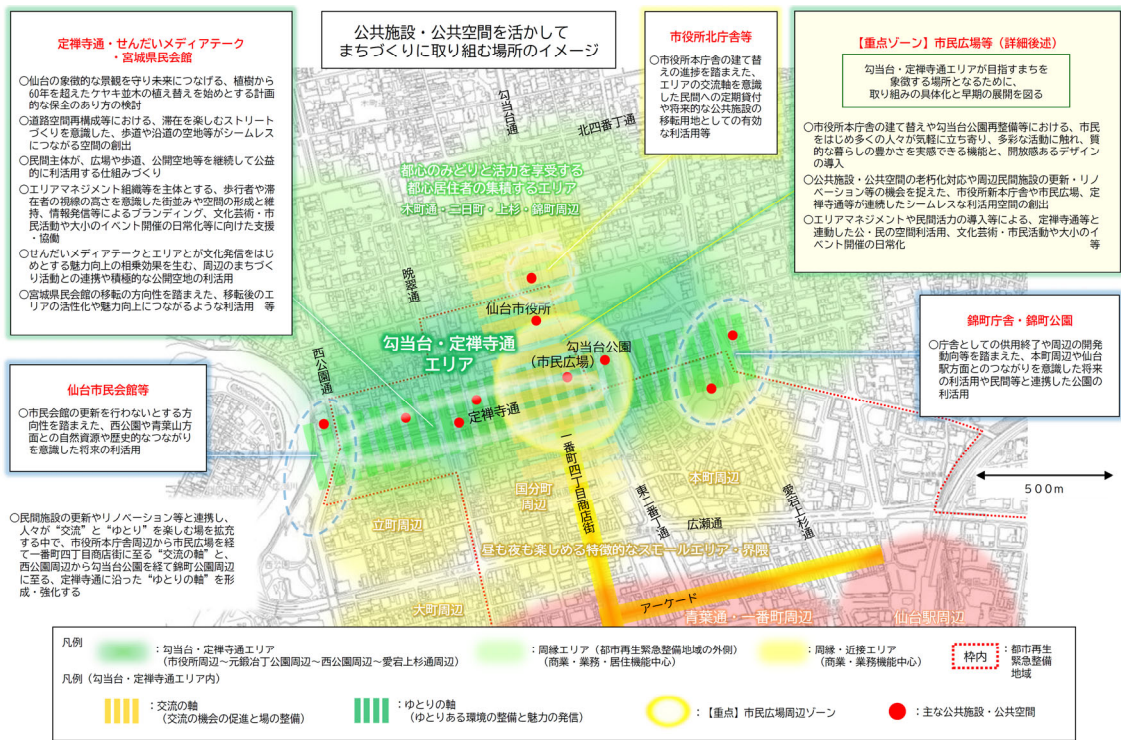


図 公共施設・公共空間を活かしてまちづくりに取り組む場所のイメージ

(出典：勾当台・定禅寺通エリアビジョン (仙台市))

1.2 地域におけるこれまでの取り組み

定禅寺通エリアに関する町内会や沿道地権者等を中心とした「定禅寺通活性化検討会」が平成30年10月に設立され、定禅寺通エリアの将来像とその実現に向けた取り組みについて継続的に検討しながら、市民参加型シンポジウムや道路空間利活用の日常化等に向けた社会実験等が行われてきました。令和4年3月には定禅寺通エリアの関係者が将来のまちづくりの方向性を共有し、その実現を目指し取り組んでいくための指針として「定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030（まちづくり基本構想）」を策定し、新たなエリアマネジメント推進体制（定禅寺通街づくり協議会・一般社団法人定禅寺通エリアマネジメント）」に、基本構想と今後のまちづくりを引き継ぎ、検討会は同5月に解散しました。

（主な取り組み）

- 平成30年10月 定禅寺通活性化検討会設立
- 令和元年10月 道路空間利活用社会実験「定禅寺通ストリートパーク'19」実施
- 令和3年8～9月 大規模社会実験「JOZENJI STREET STREAM」実施
（仙台市と共催）
- 令和4年3月 定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030（まちづくり基本構想）策定
- 令和4年5月 定禅寺通活性化検討会解散



図 定禅寺通パブリックミーティング vol.1
（令和元年6月）



図 定禅寺通ストリートパーク'19
（令和元年10月）

(1) 定禅寺通エリアまちづくりビジョン 2030（まちづくり基本構想）

基本構想は、定禅寺通エリアの関係者が将来のまちづくりの方向性を共有し、その実現を目指し取り組んでいくための指針として令和4年3月に策定されました。

まちづくりの理念と目指す街の姿、それを実現するための段階的な道路空間の再構成による「ひと中心の空間づくり」を掲げ、エリアの特徴を生かしたまちづくりの考え方や、実現に向けた4つのエリアブランディング戦略等がまとめられています。

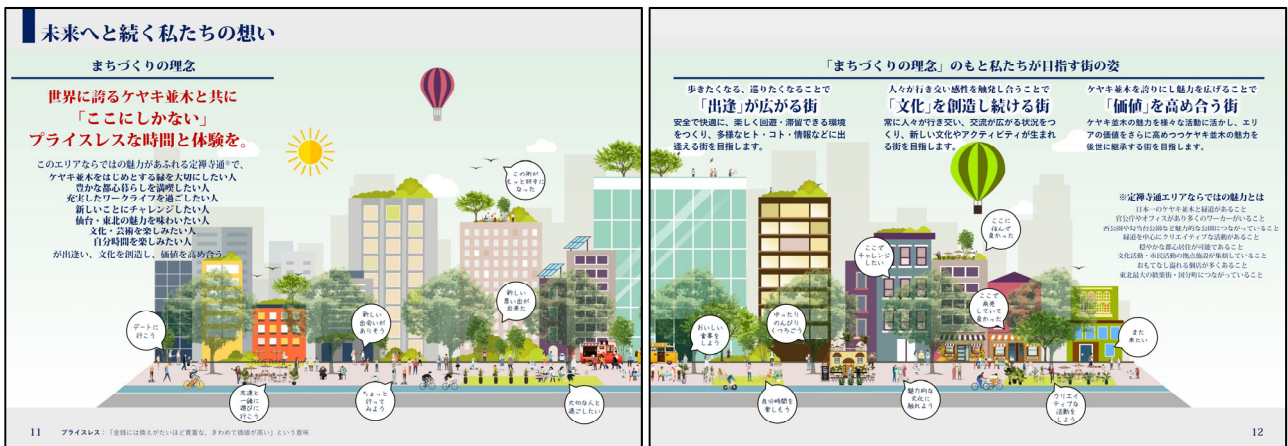


図 まちづくりの理念と目指す街の姿

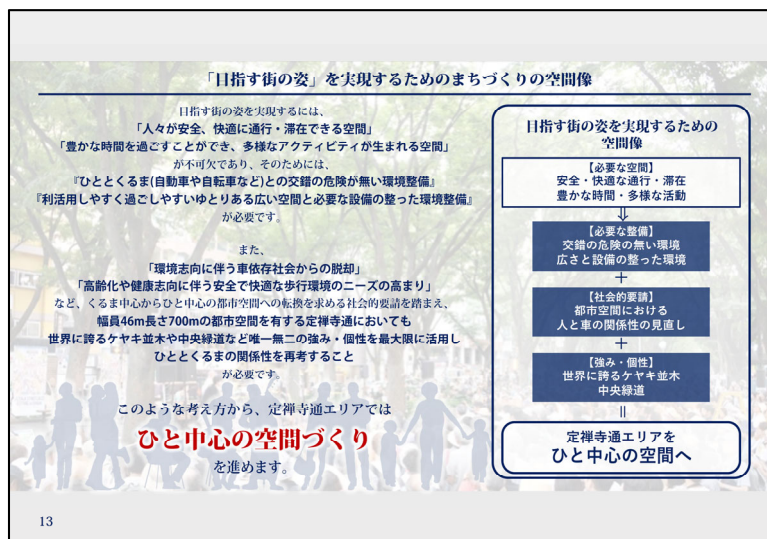


図 「目指す街の姿」を実現するためのまちづくりの空間像



図 「ひと中心の空間づくり」のステップ

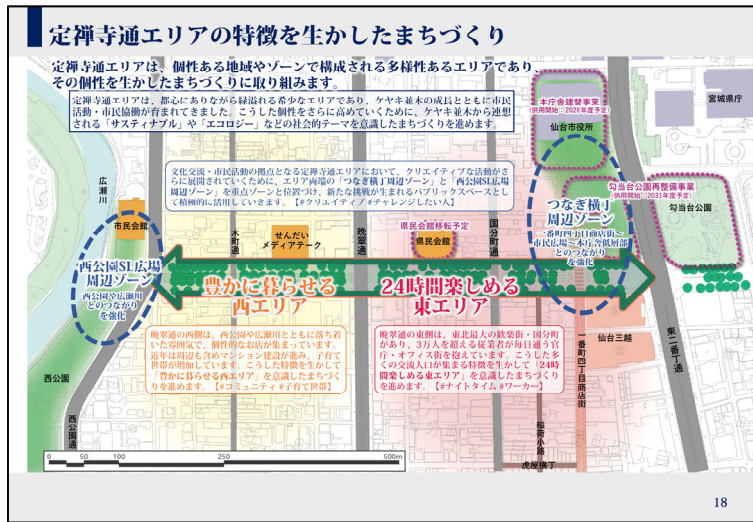


図 定禅寺通エリアの特徴を生かしたまちづくり

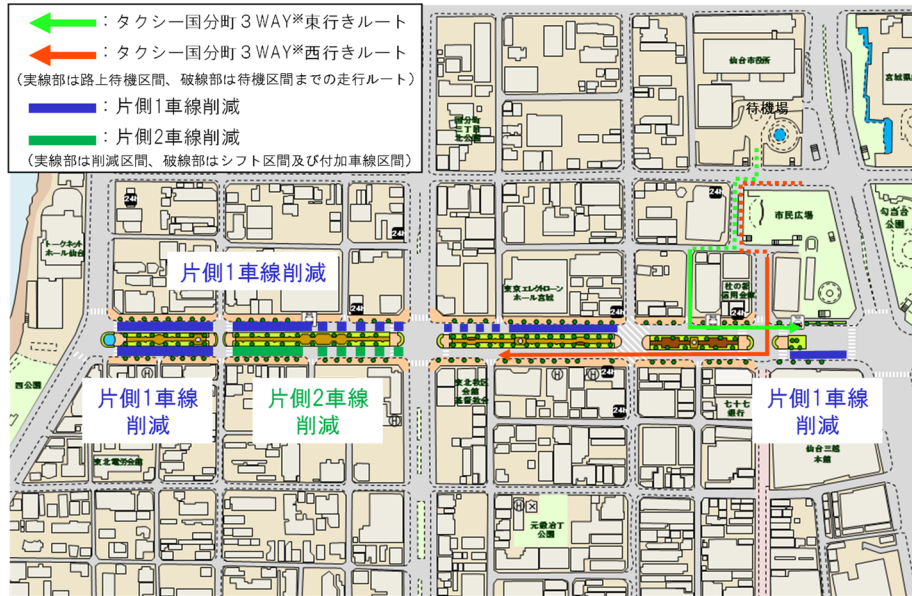


図 4つのエアブランディング戦略

（出典：定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030）

1.3 官民連携による取り組み

仙台市と検討会の共催により、車線削減による交通への影響と、道路空間の利活用の日常化に向けた効果や課題等を調査するため、定禅寺通の車線を一部削減し、拡張した歩行者空間を利活用する大規模な社会実験「JOZENJI STREET STREAM」を実施しました（令和3年8月20日（金）～9月7日（火））。



※タクシー「国分町3WAY」方式。午後10時から翌午前3時まで、タクシー乗場を定禅寺通（東進、西進）、広瀬通（東進）の3か所に集約し、それぞれの乗場からタクシーが待機レーンに整然と順番に並ぶことで、国分町地区の違法客待ちタクシーによる深夜の交通混雑を解消するもの。

図 大規模社会実験車線規制図

公共空間の利活用は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の適用に伴い、酒類の提供を取りやめるなど内容を縮小してスタートしましたが、会期中に緊急事態措置区域に追加されたことを受け、8月27日以降は出店イベントを中止するなど規模をさらに縮小しました。

図 JOZENJI STREET STREAM チラシ（中止状況掲載）

(1) 大規模社会実験における調査結果

1) 自動車交通への影響

- 自動車交通量は社会実験前と比べて大きな変化はなく、交差点需要率も目安となる数値を超えるような変化はなかったことから、社会実験の車線規制による自動車交通への影響はほとんど生じなかったと言える結果が得られています。なお、コロナ禍による影響を踏まえても、交差点需要率が目安となる数値を超える交差点は確認されませんでした。

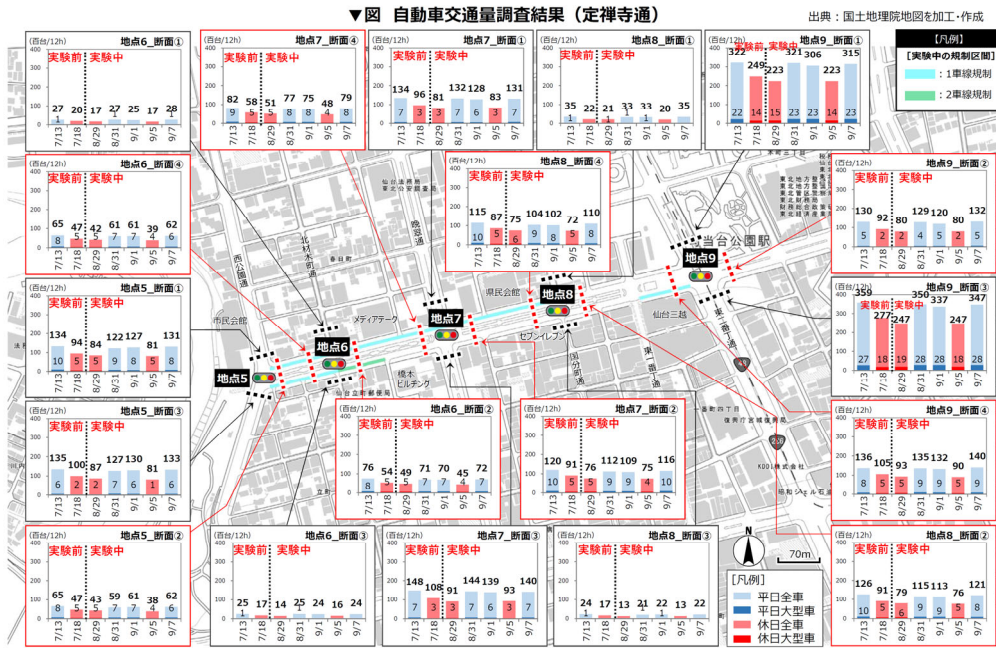


図 自動車交通量調査結果（定禅寺通）

（出典：令和3年度定禅寺通大規模社会実験各種調査結果（仙台市））



▼表 交差点解析結果

		交差点					
		1. 大学病院前	2. 木町通一丁目	3. 木町通小学校前	4. 二日町	5. 市民会館前	6. 北材木町通との交差点
実験前	7/13	0.622	0.530	0.559	0.656	0.391	0.257
	7/18	0.430	0.526	0.522	0.671	0.235	0.188
実験期間中	8/29	0.407	0.396	0.429	0.548	0.233	0.262
	8/31	0.651	0.568	0.558	0.653	0.351	0.296
	9/1	0.612	0.556	0.595	0.663	0.358	0.293
	9/5	0.439	0.441	0.423	0.570	0.225	0.240
	9/7	0.633	0.545	0.574	0.636	0.346	0.284

		交差点					
		7. 春日町	8. 国分町との交差点	9. 東二番丁	10. 西公園前	11. 東北公済病院前	12. 本町二丁目
実験前	7/13	0.409	0.228	0.520	0.711	0.588	0.617
	7/18	0.355	0.189	0.451	0.492	0.418	0.532
実験期間中	8/29	0.294	0.156	0.356	0.422	0.408	0.519
	8/31	0.416	0.230	0.507	0.642	0.545	0.590
	9/1	0.403	0.238	0.545	0.683	0.573	0.595
	9/5	0.290	0.162	0.356	0.440	0.383	0.536
	9/7	0.395	0.242	0.562	0.675	0.549	0.616

図 交差点解析結果（交差点需要率）

（出典：令和3年度定禅寺通大規模社会実験各種調査結果（仙台市））

2) 歩行者・自転車交通への影響

- 歩行者・自転車交通量に大きな変化は見られませんでした。中央緑道では出店イベントが行われた日の歩行者の通行量が増加しました。
- 車道に自転車走行空間を設けることで、自転車の車道走行は増加しましたが、錯綜はほとんど見られませんでした。また、安全性に関する肯定的な意見や否定的な意見、自転車利用者の交通ルール・マナー違反を指摘する意見等が挙げられました。

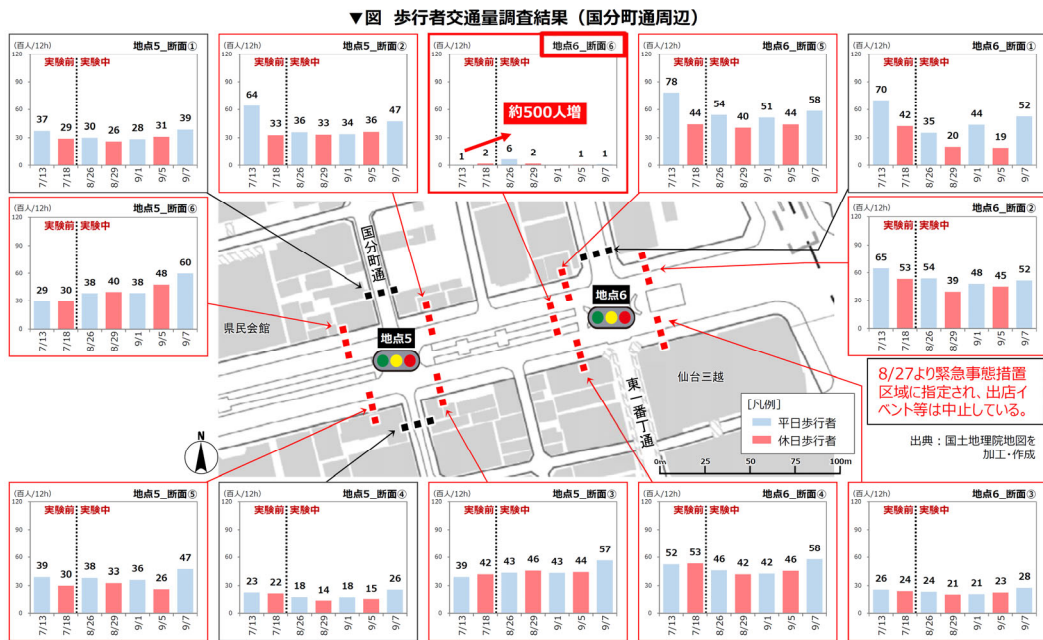


図 歩行者交通量調査結果（国分町通周辺）

（出典：令和3年度定禅寺通大規模社会実験各種調査結果（仙台市））

▼図 ビデオ観測結果（平日）

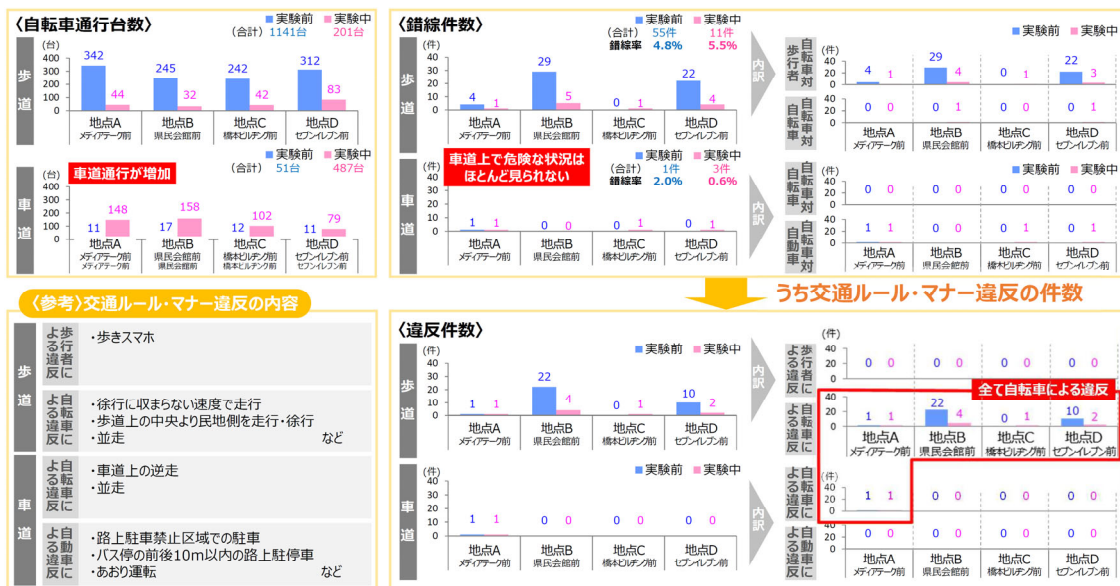


図 自転車走行空間ビデオ観測結果（平日）

（出典：令和3年度定禅寺通大規模社会実験各種調査結果（仙台市））

3) アンケート結果

- アンケート調査では、歩行者空間拡大・歩道の利活用について肯定的な意見が多く寄せられました。

【調査目的】

- ・ 社会実験の影響や公共空間利活用に対する意向等を把握する。
- ・ 複数のアンケートで共通する設問への回答を比較し、立場によるニーズの違いを把握する。

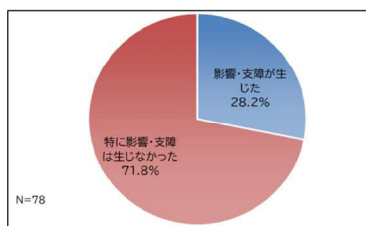
【調査結果】

【車線規制による影響・支障】 沿道関係者

設問：社会実験期間中の車線規制による影響や支障はありましたか

- ・ 車線規制による影響・支障があったと回答した割合が約28%。
- ・ 影響・支障の内容は「荷さばきの場所・時間の変更」や「自動車利用が不便になり来客が減少」が多い。

▼図 アンケート結果

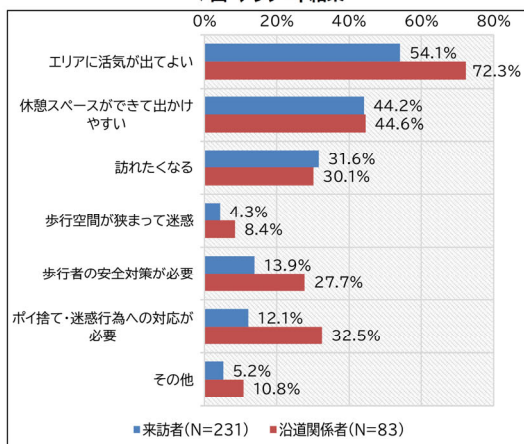


【取組に対する評価】：来訪者・沿道関係者

設問：歩道が本日のように（テーブルやベンチ、キッチンカーの設置等）使われることについてどう思いますか（複数回答）

- ・ 来訪者・沿道関係者ともに、「エリアに活気が出て良い」の割合が最も高く、沿道関係者はより高い。
- ・ 一方で、沿道関係者の方は歩行者の安全対策や、ポイ捨て・迷惑行為への対応を求めている。

▼図 アンケート結果

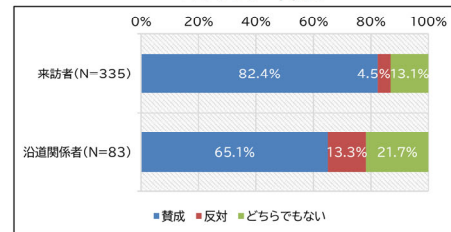


【歩行者空間拡大に対する賛否】来訪者・沿道関係者

設問：本日のように、定禅寺通を日常的な憩いやくつろぎ、飲食等のために活用することや、賑わいを創出するイベントを実施するために、歩行者空間を拡大することについてどう思いますか

- ・ 多くの方が賛成と回答している。
- ・ 特に、来訪者の方の賛意は約8割と高くなっている。

▼図 アンケート結果



【歩道の広さに対する評価】：来訪者・沿道関係者

設問：歩道が本日のように使われる場合、歩行者空間の広さについてどう思いますか

- ・ 来訪者の方が歩行者空間の拡大を求めている。

▼図 アンケート結果

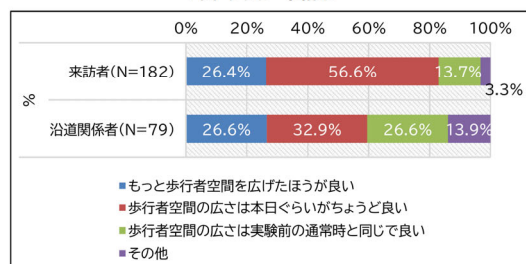


図 アンケート調査の主な結果

（出典：令和3年度定禅寺通大規模社会実験各種調査結果（仙台市））

2. 定禅寺通再整備方針策定に係る取り組み

(1) 定禅寺通の再整備に関する沿道説明会

定禅寺通街づくり協議会よりまちづくり基本構想についてご説明いただいたうえで、本市より定禅寺通の再整備の方向性について説明し、参加者の皆様からご意見をいただきました。

- 日時 令和4年10月31日(月) 14時00分～(昼の部)
18時00分～(夜の部)
- 会場 エル・パーク仙台 スタジオホール
- 参加者 34名(昼夜合計)



図 沿道説明会の様子

(2) 市民フォーラム「定禅寺通を“ひと中心の空間”にアップグレードしよう！」

本市より「定禅寺通再整備方針」中間案を説明し、あわせて、定禅寺通再整備の在り方や民間主体の取り組みにより変わる定禅寺通エリアの姿について、交通計画や空間デザインの専門家を交えてクロストークを行い、参加者の皆様からもご意見をいただきました。

- 日時 令和4年12月21日(水) 18時30分～
- 会場 エル・パーク仙台 ギャラリーホール
- 参加者 51名
- クロストークゲスト

【まちづくり団体】

定禅寺通街づくり協議会 会長 佐藤 晶洋 氏
(一社)定禅寺通エリアマネジメント 代表理事 氏家 正裕 氏

【専門家】

埼玉大学大学院工学研究科 教授 久保田 尚 氏(交通計画)
(株)オンデザインパートナーズ 代表 西田 司 氏(空間活用/空間デザイン)

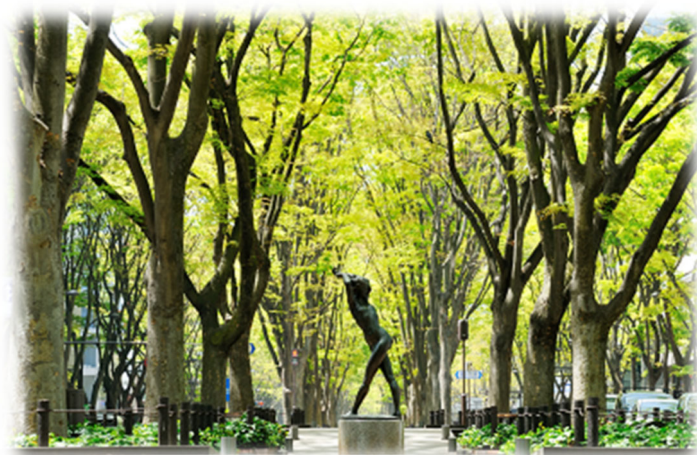


図 市民フォーラムの様子

(3) パブリックコメントの実施

- 募集期間 令和4年12月21日(水)から令和5年1月17日(火)まで
- 「定禅寺通再整備方針」中間案に対し、75件(15人)のご意見等をいただきました。

意見の分類	件数
(1) 活性化の方向性・再整備の方向性等に関する意見	12件
(2) 再整備の内容に関する意見	13件
(3) 自動車交通に関する意見	16件
(4) 自転車等に関する意見	8件
(5) 空間利活用に関する意見	4件
(6) ケヤキに関する意見	2件
(7) より幅広い意見の集約に関する意見	8件
(8) その他の意見	12件



仙台市まちづくり政策局定禅寺通活性化室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号